

【 資 料 編 】

	頁
1. 吉田町みちづくり・まちづくり検討委員会資料……………	18
第1回資料……………	19
第2回資料……………	23
第3回資料……………	27
2. 吉田町住民アンケート調査……………	31
3. ニュースレター……………	48

1. 吉田町みちづくり・まちづくり検討委員会資料

第1回 吉田町みちづくり・まちづくり 検討委員会

資料：吉田町の道路整備計画について



新潟国道事務所

資料の流れ

1. 吉田町の道路網

2. 現道の問題区間整理

3. 整備方針

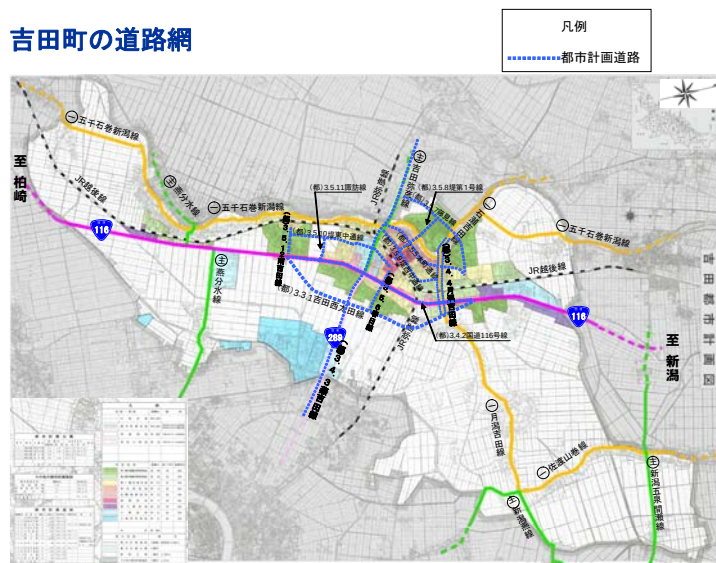
考えられる計画ルート

4. 路線選定のコントロールポイント

5. 起終点・バイパス通過帯の設定

6. ルートの設定

1. 吉田町の道路網



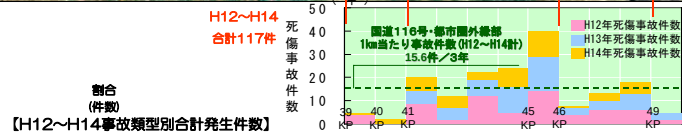
2. 現道の問題区間整理

① 渋滞箇所

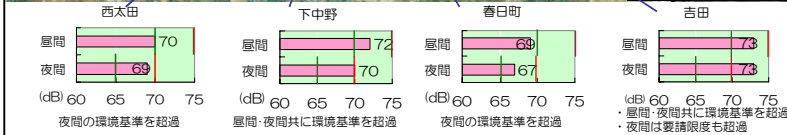


② 事故多発箇所

A photograph of a busy street in Japan. In the foreground, a large truck with a colorful advertisement on its side is visible. The advertisement features a green and red design with the word "SUN" in large letters. Behind the truck, a line of cars is parked or moving along the street. In the background, tall buildings and utility poles are visible, suggesting an urban environment. The overall scene depicts a typical street view in Japan.

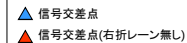


③ 沿道環境問題箇所

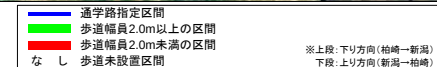


④ 右折レーンの無い交差点

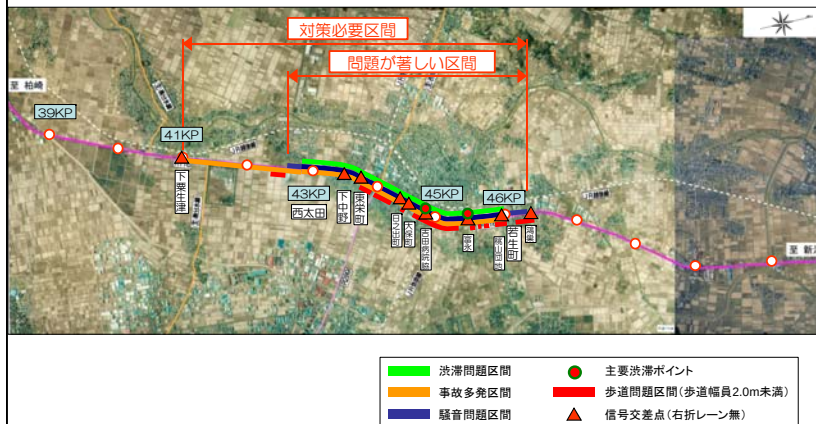
A photograph of a busy street scene. In the foreground, a white truck is partially visible on the right side. A blue car is in the center, and a black car is on the left. The street has a crosswalk with white stripes. In the background, there are other vehicles and buildings.



⑤ 狭小歩道等の区間

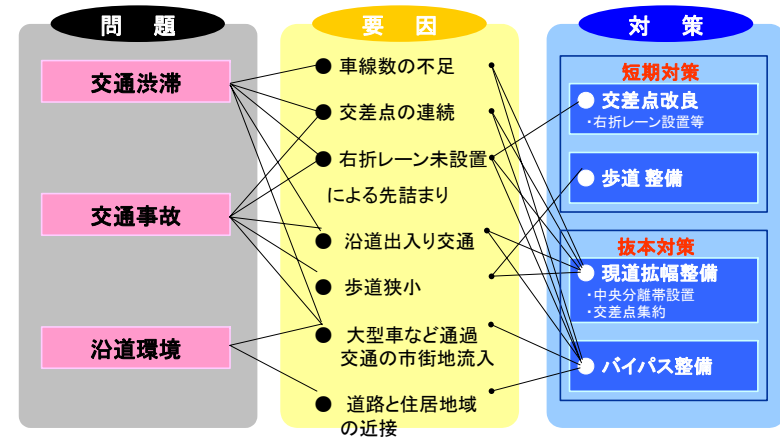


⑥ 対策必要区間

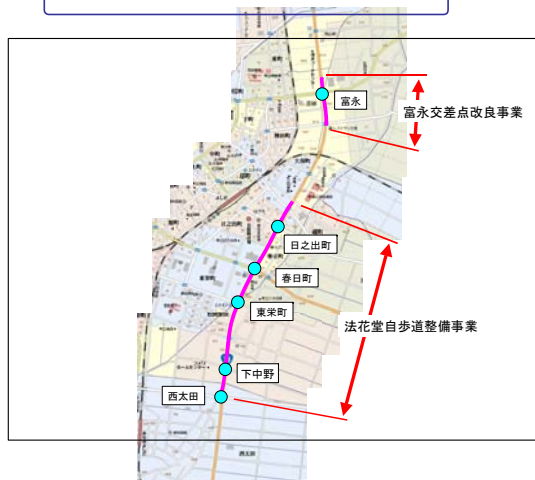


3. 整備方針

- 短期対策：現道の主要交差点の右折レーン設置と歩道整備等局部対策
- 抜本対策：国道116号の拡幅またはバイパス整備



短期対策(現道区間)



4. 路線選定のコントロールポイント



5. 起終点・バイパス通過帯の設定

西側ルートが回避できないコントロールポイント

- 鉄道横断 (避けた方がよいもの)
 - 河川横断 (避けた方がよいもの)
 - 工業団地 (避ければならないもの)
- ※ その他、多くの圏域斜め分断が生じます。



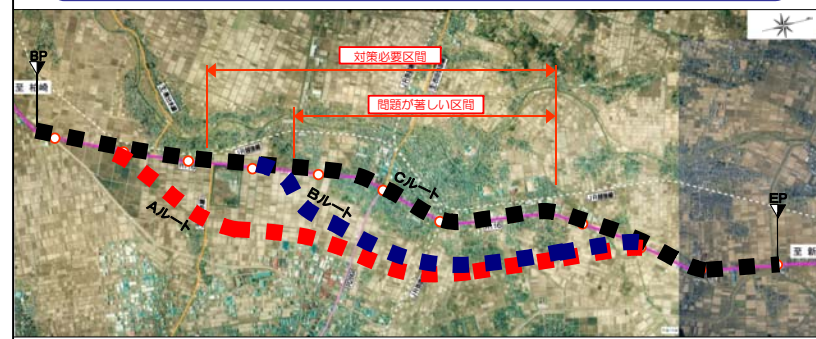
6. ルートの設定

【バイパス整備】

- Aルート ■■■■ : 「対策必要区間」を迂回するルート
- Bルート ■■■■ : 「問題が著しい区間」を迂回するルート

【現道拡幅整備】

- Cルート ■■■■ : 現道を4車線拡幅で整備するルート



第2回 吉田町みちづくり・まちづくり 検討委員会



平成17年9月30日
国土交通省 新潟国道事務所

1. 構想ルート帯

- ◎一般国道116号吉田町地区における諸問題
1. 市街地における渋滞 …… 全国平均を超える渋滞損失時間
 2. 事故多発箇所存在 …… R116号で高い事故発生件数
 3. 沿道環境（騒音） …… 観測4地点で環境基準超過
 4. 右折レーンのない交差点 …… 信号交差点16箇所中9箇所
 5. 狭小歩道等 …… 歩道2m未満が多く存在

1～5の諸問題の内、いずれかが該当する区間を「対策必要区間」、諸問題が重複する区間を「問題が著しい区間」として位置付ける。

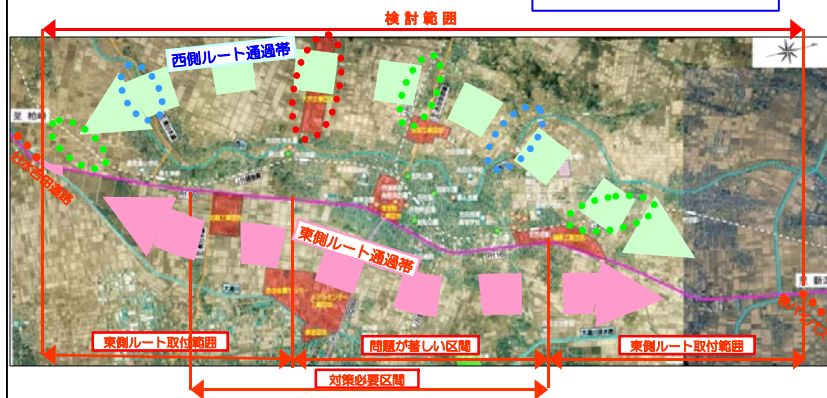


1. 構想ルート帯

- ◎ルート帯を考える上でのコントロールポイント
- ・学校等の公共施設
 - ・河川、JR等
 - ・市街地の状況

西側ルートが回避できないコントロールポイント

- 鉄道橋断（避けた方がよいもの）
- 河川橋断（避けた方がよいもの）
- 工業団地（避けなければならないもの）



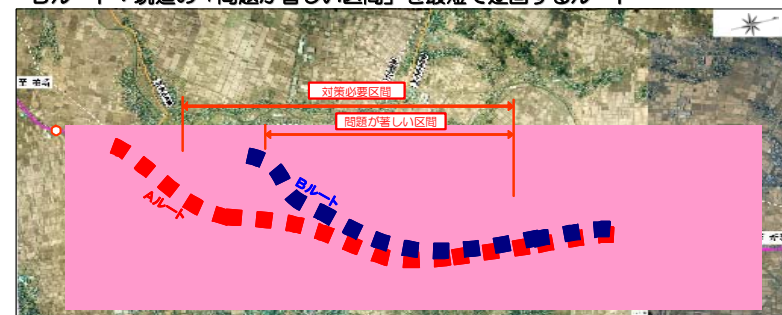
1. 構想ルート帯

○ 構想ルート帯は現116号東側とする。

○ 起終点は以下の2案で検討。

Aルート：「対策必要区間」を最短で迂回するルート

Bルート：現道の「問題が著しい区間」を最短で迂回するルート



対策必要区間：渋滞、事故、環境、道路構造のいずれかの問題を抱える区間
下粟生津交差点～若生町交差点（41kp～46kp）

問題が著しい区間：渋滞、事故、環境、道路構造の問題を複合的に抱える区間
西太田交差点～若生町交差点（43kp～46kp）

2. 道路の規格

◎ルート帯の外、概略計画を考える上での検討項目

① 道路種別：第3種第2級

条件：一般国道、平地部、計画交通量20,000台/日程度

② 車線数：2車線

条件：計画交通量と交通容量との比較による。

③ 設計速度

条件：道路種別による。第3種第2級の場合 $V=60\text{ km/h}$

④ 道路の構造：高盛土構造 or 低盛土構造

条件：道路の目的・利用形態、沿道の状況等を考慮

3. 将来交通量の推計

○ 将来の交通量が計画検討にあたっての必須項目

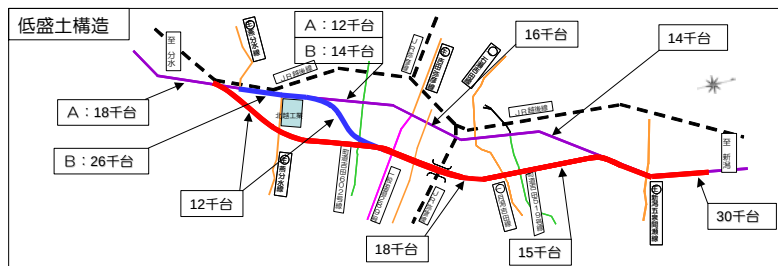
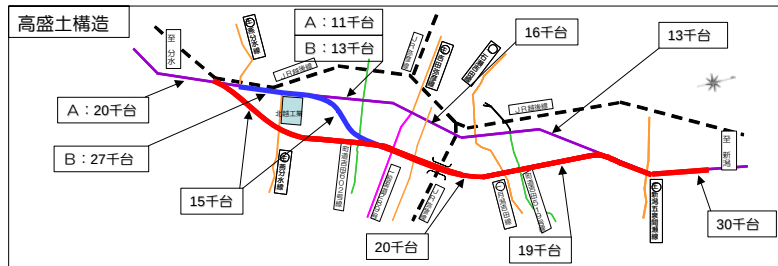
○ Aルート、Bルートそれぞれについて高盛土構造案と低盛土

構造案で整備した場合の将来交通量推計（H42年）を実施。
この値を計画交通量として、以下の項目について比較。

① 「交通サービス」の観点からの比較

② 「整備効果」による比較

3. 将来交通量の推計



3-1. 交通サービスの観点からの比較

(1) 「交通サービス」の観点からの比較

① ピーク時間交通量と設計交通容量との比較

ピーク時の交通量が対象とする道路の設計交通容量※を上回らないことを確認

※設定する計画水準（提供すべきサービスの質の程度）に応じて可能交通容量（対象とする道路の道路条件・交通条件に対しての交通容量）を低減させて求められる交通容量

② 主要交差点における交通処理状況

平面構造案について、国道289号との交差点における交通処理状況を検討

③ サービス速度

吉田地区区間の平均通過速度を算出し比較

ケース	①ピーク時間交通量と設計交通容量の比較			②主要交差点における交通処理状況	③サービス速度
	o) ピーク時間交通量 (台/h)	d) 設計交通容量 (台/h)	o/d	交差点飽和度	サービス速度 (km/h)
Aルート低盛土構造案	1,451	1,580	0.92	0.836	37.4
Aルート高盛土構造案	1,665	1,860	0.89	—	47.5
Bルート低盛土構造案	1,435	1,580	0.91	0.840	37.1
Bルート高盛土構造案	1,648	1,860	0.89	—	46.8

・対象道路の道路条件・交通条件を考慮して算出した設計交通容量と比較した場合、いずれの案も設計交通容量を下回り、ピーク時でも提供すべきサービスの質を満足することが可能。

2車線で整備を計画

※高盛土構造案は、平面交差点がないためサービス速度が高く、総合的に低盛土構造案よりも高い交通サービスが得られる。

3-2. 整備効果の観点からの比較

(1) 整備効果による比較

① 吉田地区全体における効果

吉田地区の道路ネットワークを対象として費用対効果（B/C）を算出

ケース	事業費 (億円)	① 吉田地区全体における効果		
		B：総便益 (億円)	C：総費用 (億円)	B/C
Aルート低盛土構造案	140	420	120	3.5
Aルート高盛土構造案	240	750	200	3.8
Bルート低盛土構造案	130	380	120	3.2
Bルート高盛土構造案	210	650	180	3.6

※事業期間はH18～H32の15年間でH33供用で想定

※40年間の総便益・総費用（事業費・維持管理費）を現在価値に割り戻してB/Cを算出

- ・事業費は高盛土構造案のほうが高いが、周辺道路網からの交通の転換が多いため、高い便益が得られる。
- ・B/Cは3.3～3.8で各案とも大きな差はないが、高盛土構造案のほうが若干高くなっている。

3-2. 整備効果の観点からの比較

② 現道の「問題が著しい区間」における効果

問題が著しい区間にあたる西太田交差点～若生町交差点間の平均交通量を算出
算出された平均交通量を基に「渋滞損失」「事故件数」「騒音レベル」を推計

ケース	渋滞		事故	環境
	①平均交通量 (百台/日)	②渋滞損失	③死傷事故件数	④等価騒音レベル
現況	225	100	100	100
Aルート低盛土構造案	140	24	67	95
Aルート高盛土構造案	145	26	70	95
Bルート低盛土構造案	142	25	69	95
Bルート高盛土構造案	140	23	67	95

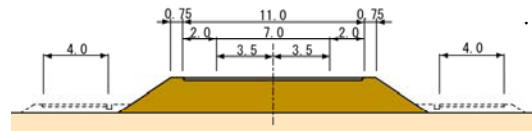
※渋滞損失、事故件数、騒音レベルについては、現況を100とした指標で表示した。

- ・問題が著しい区間の平均交通量は各案ともほとんど変わらない結果となったため、各評価項目とも大きな差は生じていない。
- ・渋滞損失が約70%低減、事故件数は約30%低減、騒音レベルについては約5%低減し、バイパス整備により現道の問題解消に向けた効果が期待できる。

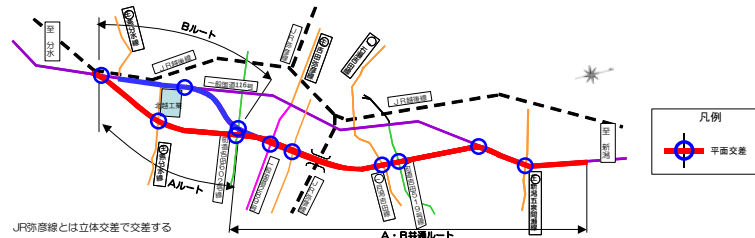
4. 道路構造

○ 道路構造：低盛土構造案 または 高盛土構造案

標準横断面図(低盛土構造案)

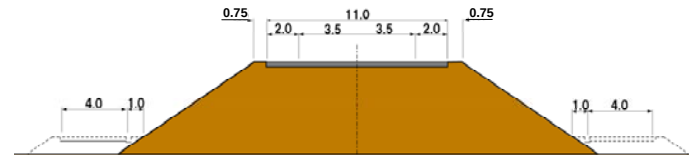


- ・国道116号と平面交差点で分岐・合流する。
- ・国道、県道、主要な町道等を交差対象とし、平面交差点で交差。



4. 道路構造

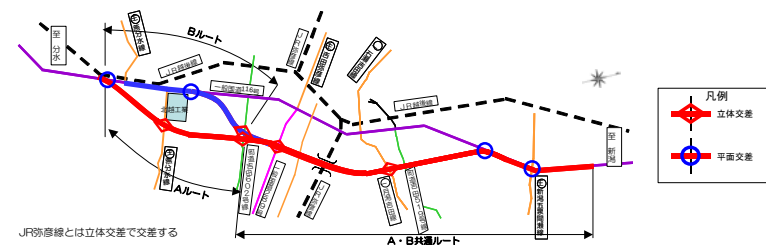
標準横断面図(高盛土構造案)



【立体構造案のIC設置案】

- ・主要地方道燕分水線
- ・町道吉田602号線
- ・国道289号
- ・一般県道月湯吉田線

- ・国道116号と平面交差点で分岐・合流する。
- ・交差道路とはアクセスコントロールを基本とし、IC設置案としてはAルートで4箇所、Bルートで3箇所程度とする。



4. 道路構造

(1) 構造による差異（バイパス区間）

構造の違いによる、現道での整備効果は大きな差異はみられなかったため、構造自体を比較する。

ケース	事故	環境	
	⑤死傷事故件数	⑥大気汚染 (t-NOx)	⑦地球温暖化 (t-CO2)
Aルート低盛土構造案	100	100	100
Aルート高盛土構造案	19	101	105
Bルート低盛土構造案	83	100	100
Bルート高盛土構造案	15	100	104

※Aルート低盛土構造を100とした指標で表示した。

- ・環境にかかる窒素酸化物ではほとんど差はみられないが、高盛土構造の場合、交通量自体が多いため二酸化炭素排出量は約5%ほど微増するものと推計される。
- ・構造による大きな違いは、事故件数の多寡で約80%もの差異がある。
これは、バイパスと交差する道路とのアクセス方法によるもので、立体交差による高盛土構造の場合、平面交差となる低盛土構造に比べて追突・出会い頭の事故減少が期待できるものである。

4. 道路構造

○道路構造は交通機能を確保しつつ、経済性、まちづくりの観点から検討が必要。

道路構造	低盛土構造	高盛土構造
断面イメージ		
交通機能	・沿道からのアクセスは主要交差点へ迂回してアクセス。 ・平面交差点が基本。交差点数・間隔により旅行速度の低下が懸念。また交差点・乗り入れ箇所等の事故発生要因が多くなる。	・沿道からのアクセスはICへ迂回してアクセス。 ・立体交差点による7/7tコントロールで交通処理機能、定時性の確保。事故発生要因は少ない。
土地利用との関係	・法的規制等がなければ沿道開発が進む恐れ。旧市街地への影響が懸念。	・合併する燕市と景観上の分断感。 ・沿道開発抑制に効果大。
地先交通との整合性	・本線を横切る交通は最寄りの交差点へ迂回。適宜乗り入れを設置。	・本線を横切る交通は必要に応じて設置される横断ボックスへ迂回。
環境	・低騒音舗装等で騒音対策	・状況に応じて遮音壁の設置が容易
経済性	・高盛土に比して安価。 ・費用対効果は3.3～3.5	・低盛土の約1.7倍。 ・費用対効果は3.7～3.8

4. 道路構造

○道路構造は都市計画（まちづくり）の観点からの意見が重要

①合併後の新市庁舎建設位置

②合併後の新市を見据えたまちづくり

③沿道開発抑制へ向けた取り組みの有無

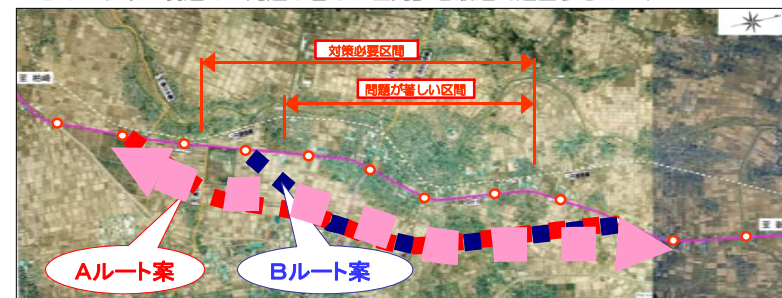
第3回 吉田町みちづくり・まちづくり 検討委員会



平成17年12月27日
国土交通省 新潟国道事務所

1. 構想ルート帯

- 構想ルート帯は現116号東側とする。
- 起終点は以下の2案で検討。
Aルート案：「対策必要区間」を最短で迂回するルート
Bルート案：現道の「問題が著しい区間」を最短で迂回するルート



対策必要区間：渋滞、事故、環境、道路構造のいずれかの問題を抱える区間
下粟生津交差点～若生町交差点（41kp～46kp）
問題が著しい区間：渋滞、事故、環境、道路構造の問題を複合的に抱える区間
西太田交差点～若生町交差点（43kp～46kp）

※資料中の数値等は現時点での検討段階のものであり、確定値ではありません。今後の検討により数値が変わる場合があります。

2. 道路の規格

◎ルート帯の外、概略計画を考える上での検討項目

① 道路種別：第3種第2級

条件：一般国道、平地部、計画交通量20,000台/日程度

② 設計速度

条件：道路種別による。第3種第2級の場合 $V=60\text{ km/h}$

③ 車線数：2車線での整備

条件：計画交通量と交通容量との比較による。
コスト縮減と事業のスピードアップにつながる。

④ 道路の構造：高盛土構造 or 低盛土構造

条件：道路の目的・利用形態、沿道の状況等を考慮

※資料中の数値等は現時点での検討段階のものであり、確定値ではありません。今後の検討により数値が変わる場合があります。

3. 将来交通量の推計

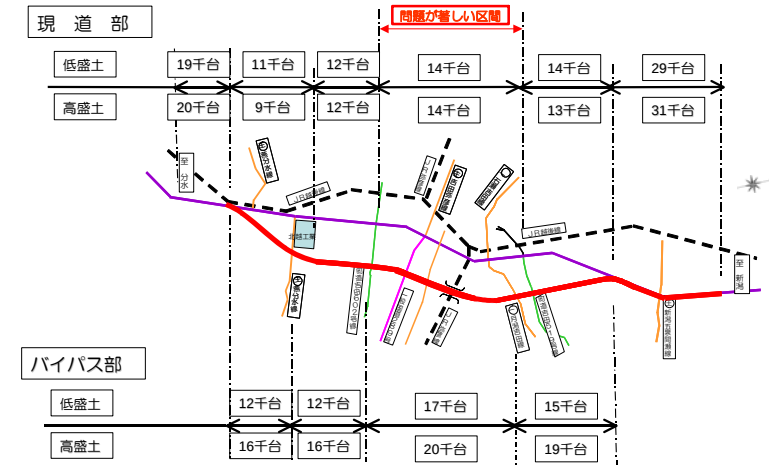
- 将来の交通量が計画検討にあたっての必須項目
- Aルート案、Bルート案それぞれについて高盛土構造案と低盛土構造案で整備した場合の将来交通量推計（H42年）を実施。この値を計画交通量として、整備効果について比較。

土構造案で整備した場合の将来交通量推計（H42年）を実施。この値を計画交通量として、整備効果について比較。

「整備効果」による比較
（現道部およびバイパス）

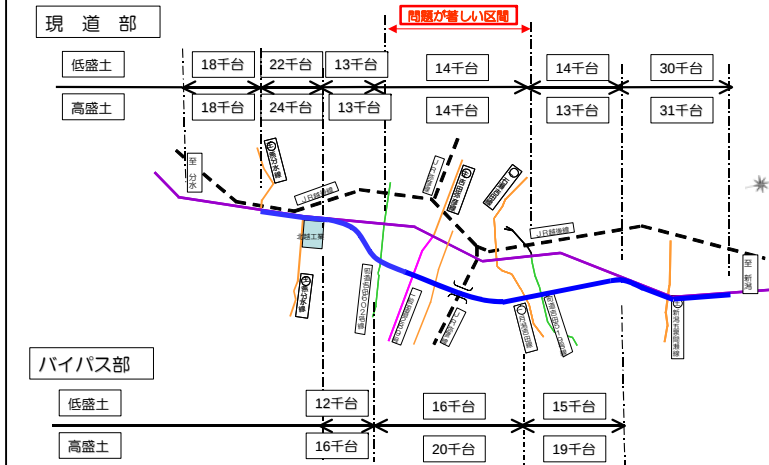
※資料中の数値等は現時点での検討段階のものであり、確定値ではありません。今後の検討により数値が変わる場合があります。

3. 将来交通量の推計（Aルート案：区間平均）



※資料中の数値等は現時点での検討段階のものであり、確定値ではありません。今後の検討により数値が変わる場合があります。

3. 将来交通量の推計（Bルート案：区間平均）

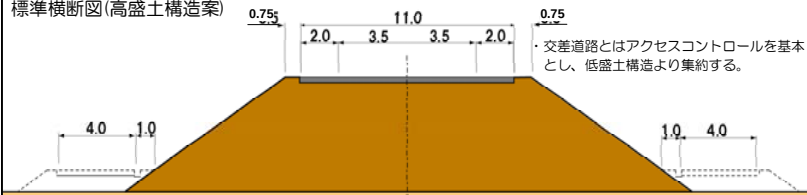


※資料中の数値等は現時点での検討段階のものであり、確定値ではありません。今後の検討により数値が変わる場合があります。

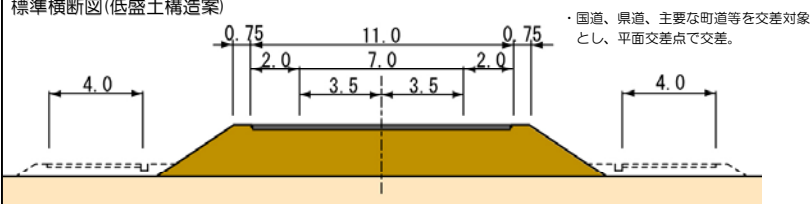
4. 道路構造

○道路構造：高盛土構造案 または 低盛土構造案

標準横断面図(高盛土構造案)



標準横断面図(低盛土構造案)



※資料中の数値等は現時点での検討段階のものであり、確定値ではありません。今後の検討により数値が変わる場合があります。

5. 整備効果の観点からの比較（現道部）

◎一般国道116号吉田町地区における諸問題

1. 市街地における渋滞 . . . 全国平均を超える渋滞損失時間
2. 事故多発箇所存在 . . . R116号で高い事故発生件数
3. 沿道環境（騒音） . . . 観測4地点で環境基準超過
4. 右折レーンのない交差点 . . . 信号交差点16箇所中9箇所
5. 狭小歩道等 . . . 歩道2m未満が多く存在

1～5の諸問題の内、いずれかが該当する区間を「対策必要区間」、諸問題が重複する区間を「問題が著しい区間」として位置付ける。

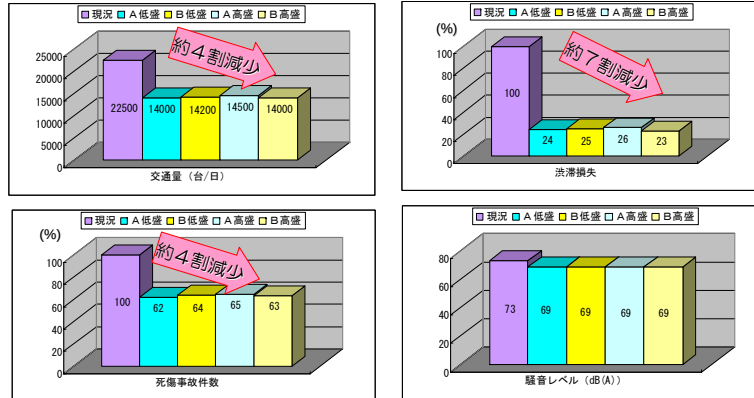


※資料中の数値等は現時点での検討段階のものであり、確定値ではありません。今後の検討により数値が変わる場合があります。

5. 整備効果の観点からの比較（現道部）

①現道の「問題が著しい区間」における効果

問題が著しい区間にあたる西太田交差点～若生町交差点間の平均交通量を算出
算出された平均交通量を基に「渋滞損失」「事故件数」「騒音レベル」を推計（現況を100とした指標）

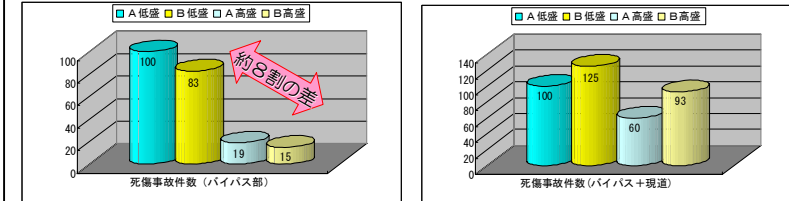


※資料中の数値等は現時点での検討段階のものであり、確定値ではありません。今後の検討により数値が変わる場合があります。

6. 整備効果の観点からの比較（バイパス部）

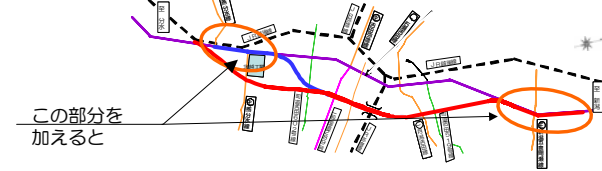
（1）バイパス区間における死傷事故件数

構造の違いによる死傷事故件数の推計値を比較



※Aルート低盛土構造を100とした指標で表示した。

- ・構造による大きな違いは、事故件数の多寡で、バイパス部分に限れば約8割もの差異がある。
- ・しかしながら、Bルート案の場合、バイパス延長が短くなり、現道部分を加味すると事故件数は多くなる。

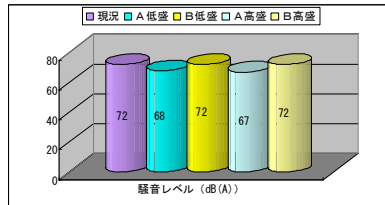


※資料中の数値等は現時点での検討段階のものであり、確定値ではありません。今後の検討により数値が変わる場合があります。

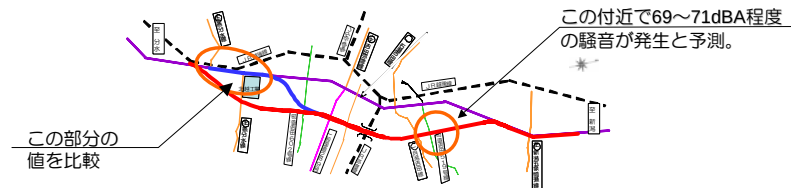
6. 整備効果の観点からの比較（バイパス部）

（2）バイパス区間における騒音予測と通過速度

構造の違いによる騒音の予測値と通過速度を比較



ケース	通過速度 (km/h)
Aルート低盛土構造案	37
Aルート高盛土構造案	48
Bルート低盛土構造案	37
Bルート高盛土構造案	47



※資料中の数値等は現時点での検討段階のものであり、確定値ではありません。今後の検討により数値が変わる場合があります。

7. 整備効果の比較

（1）整備コストを含め、現道とB Pでの効果を比較

事業費は最も安価となるBルート低盛土構造案を1.0とした指標。

ケース	現道の効果比較				B P 部の効果比較				事業費	費用便益 B/C	事業期間
	交通量	渋滞	事故	騒音	交通量	事故	騒音	通過速度			
Aルート低盛土構造案	14千台	○	○	△	1.7千台	△	△	○	1.1	3.5	○
Aルート高盛土構造案		○	○	△	2.0千台	◎	△	◎	1.8	3.8	×
Bルート低盛土構造案		○	○	△	1.6千台	×	△	○	1.0	3.2	◎
Bルート高盛土構造案		○	○	△	2.0千台	○	△	◎	1.6	3.6	△

※各項目の評価は各4ケースでの比較評価

- ・どのケースでも現道での整備効果は期待できるが、概ね同様の結果
- ・バイパスにおける効果比較では、Aルート高盛土構造が高い交通処理能力を示す
- ・反面、事業費はAルートの高盛土構造が一番高く、事業期間も長くなるものと推測される

※資料中の数値等は現時点での検討段階のものであり、確定値ではありません。今後の検討により数値が変わる場合があります。

6. まちづくりの観点から。。

〇道路構造は都市計画（まちづくり）の観点からの意見が重要

①合併後の新市庁舎建設位置

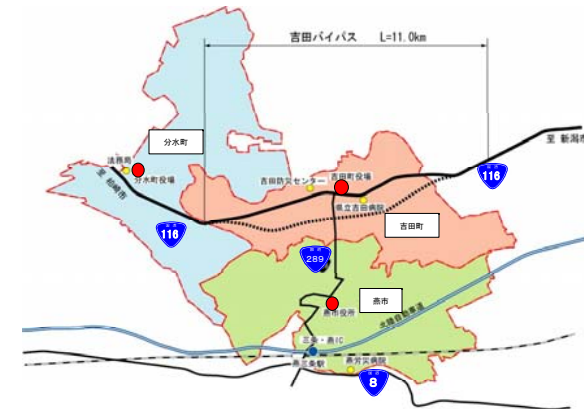
②合併後の新市を見据えたまちづくり

③沿道開発抑制へ向けた取り組みの有無

※資料中の数値等は現時点での検討段階のものであり、確定値ではありません。今後の検討により数値が変わる場合があります。

6. まちづくりの観点から。。

平成18年3月20日に吉田町・燕市・分水町が合併、人口約85,000人の新燕市が誕生。



※資料中の数値等は現時点での検討段階のものであり、確定値ではありません。今後の検討により数値が変わる場合があります。

6. まちづくりの観点から。。

・バイパスの沿道開発が行われるよりも国道289号や町道602号線の沿道開発が新しい燕市の一体感を産むものと期待される。

新燕市役所庁舎
建設候補地

分水町へ

・市町村合併により求められるものとは？

・新たなバイパスが都市交流軸として機能。
・工業団地の一体化による生産拠点ゾーンの形成を支援する道路

※資料中の数値等は現時点での検討段階のものであり、確定値ではありません。今後の検討により数値が変わる場合があります。

7. 今後の課題

〇ワークショップで得られた、住民の求める道路とは？

- ・現道とバイパスの明確な交通分担。現道は住民の生活道路、新たなバイパスは通過交通を市街地から排除するための道路。
- ・そのため、新たなバイパスにはアクセスコントロールを前提とした、高い交通処理能力を求める。
- ・現道は、生活道路として、安全性・機能性の確保を。
- ・圃場に対する思いが強く、新たなバイパスの整備にあたっては景観上・利用上の配慮を求める。

〇構想ルート帯・構造の絞り込みに向けて

- ・現状までの比較・検討結果、現道の改善効果ではA・Bそれぞれのルート帯案は顕著な差はでていない。
- ・新たなバイパスの効果を比較すると、交通処理能力の高さから高盛土構造が住民意見と合致。A・Bルート帯案については一長一短。
- ・今後のルート帯案絞り込みに向けては、各ルート帯毎の概略設計を進め、事業に要する費用の精度を高める等の必要がある。また、概略設計を行うことにより、高盛土・低盛土といった構造部分の検討も進み、より望ましい形での道路形態の絞り込みも可能となる。

2. 吉田町住民アンケート調査

1) アンケートの配布数

アンケートは、吉田町全戸を対象として、広報誌に添付して配布した。

表.1 にアンケート配布数および回収状況を示す。

表.1 アンケートの概況

アンケート配布総数	8,331 通（吉田町全戸配布）
回 収 数	1,005 通
回 収 率	12 %

※全戸配布の中には町内会に加入している小規模な企業も含んでいます。

2) 集計にあたっての基本条件の整理

集計にあたっては、アンケート結果をパーセント表示で示すことを基本として整理する。

以下に、集計にあたっての条件を整理する。

- ① 複数回答の設問については、母集団をアンケート回答者総数（回収数）とする。
- ② 「1つだけ選んで・・・」の設問において、回答者が複数回答している場合が多くあるため、その回答を有効回答とし、母集団を全回答数とする。
- ③ 誘導式の設問（例：「Q1 の回答で①を選択した場合、Q2 に進む」など）の場合、誘導先以外についても回答している方がいる。この場合、誘導通りに回答している方のみ有効回答扱いとして集計する。
- ④ アンケートの「2. 交通手段等について」は、全問回答とする設問であったが、全問回答者が少なかったため、各設問の回答数を有効回答数として整理する。

なお、以下に今回のアンケートの各設問が、上記①～④のどの方法に基づき集計を実施したかを示す。

母集団の 設定方法	設問番号
①	大設問 1-Q1、Q2
②	大設問 1-Q3、 大設問 3-Q1、Q2、 大設問 4-Q1、Q3
③	大設問 3-Q3、 大設問 4-Q2
④	大設問 2

3) アンケートの設問内容

次ページ以降に、「吉田町住民アンケート調査」の調査票を示す。

吉田町住民アンケート調査

特定非営利活動法人 地域インフラ研究会

このアンケート調査は、国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所から、**一般国道 116 号に関する住民が望む整備方法の提案等**を目的として、住民意見の把握を目指し、中立的な立場で、私ども『特定非営利活動法人 地域インフラ研究会』が受託業務として取り組むものです。

私達は、県央地域で活力のある吉田地区について、まちづくりから見た道づくりがどうあるべきか、現在の利用状況、道づくりに対する要望などを把握するために、地域で暮らしている皆様から意見を頂きたいという思いから、このような調査を計画いたしました。

みなさまからのご回答は、これから私達が吉田町で**地域住民のみなさんと一緒に取り組みたい**と考えている**地域情報発信拠点の設置・運営、みちづくり・まちづくりワークショップの開催**などを通じ、住民意見の資料として反映していきたいと考えております。つきましては、全4ページありますが、下記項目についてご回答をいただけるよう協力をお願い致します。

回答は世帯主には限定しておりません。20 才以上のご家族の方ならどなたが回答されても結構です。
なお、アンケート調査の実施にあたり、吉田町役場の協力を得て、広報誌とともに配布させて頂きました。

1. まちづくり 2. 交通手段等について 3. 吉田町の国道116号について 4. あなた自身について

<調査票ご記入にあたってのお願い>

◎本調査票へのご記入にあたっては、下記の諸点についてご留意頂きますようお願い致します。

- ◆この調査票は、平成 15 年 2 月 15 日(土)中までに、同封の返信用封筒にてご返送下さい。
- ◆お答えいただいた内容は、当目的以外には使用いたしませんので、ご回答の方には、ご迷惑をお掛けすることはありません。
- ◆この調査票に関するご質問、ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

特定非営利活動法人 地域インフラ研究会 TEL/FAX : 025-233-1250

1. まちづくり

Q1 吉田町のまちづくりで良い又は良くなっていると思われることは何ですか。この中からいくつでもあげ、()に○をご記入ください。

- ①公共施設(いわゆる箱もの)が整備されている ()
- ②道路が整備され、通勤・通学・買い物等の利便性が向上している ()
- ③商店街に活気がある ()
- ④利用しやすい公園が整備されている ()
- ⑤自転車道や歩道が整備されている ()
- ⑥子育て支援施設等が整備されている ()
- ⑦高齢者・身障者・子ども連れなどに配慮したまちである ()
- ⑧JRやバスなどの公共交通機関の利便性が良い ()
- ⑨歴史・文化を考慮したまちとなっている ()
- ⑩住民の声が反映されている ()
- ⑪その他()

Q2 吉田町のまちづくりで悪い又は悪くなっていると思われることは何ですか。この中からいくつでもあげ、()に○をご記入ください

- ①公共施設(いわゆる箱もの)が整備されていない ()
- ②道路が整備されておらず不便である ()
- ③商店街に活気がない ()

裏面へ

- ④公園が少ない ()
- ⑤自転車道や歩道が整備されていない ()
- ⑥上記事項は整備されているが幅が狭かったり段差が多い ()
- ⑦子育て支援施設等が整備されていない ()
- ⑧高齢者・身障者・子ども連れなどに配慮されていないまちである ()
- ⑨JRやバスなどの公共交通機関は利用しにくいまちである ()
- ⑩歴史・文化を考慮していないまちである ()
- ⑪住民の声が反映されていない ()
- ⑫その他()

Q3 あなたは、まちづくり活動についてどのように関わっていますか。この中から1つだけ選び、()に○をご記入ください。

- ①ボランティア団体等に所属し、定期的にまちづくりや地域活性化を目指した活動を行っている ()
- ②ボランティア団体等や役所が主催するまちづくりイベントに参加したことがある ()
- ③ボランティア団体等やイベントに参加したいと考えているが、イベントや参加方法等の情報がわからない ()
- ④ボランティア団体等や役所の活動は知っているが、忙しくて参加したことがない ()
- ⑤ボランティア団体等や役所の活動は知っているが、活動しても無駄であると思うので参加する気はない ()
- ⑥ボランティア団体等や役所の活動を知らないし、参加する気もない ()
- ⑦その他()
- ⑧わからない ()

2. 交通手段等について

あなたの公共交通機関等の利用頻度について、下表の利用する手段の全ての事項に関して教えて下さい。平日と休日の両者についてご記入ください。

記載方法は、利用頻度は、該当する事項を○で囲み、主な行き先地は「主な行き先地記号」に記載している記号をカッコ内に記入ください。なお、利用頻度で「ほとんど利用しない」が該当する場合は主な行き先地は記載しなくて結構です。

主な行き先地記号（平日・休日共通）

ア 吉田町駅周辺商店街 イ 吉田地区国道 116 号商店街 ウ 左記以外の吉田町町内
エ 燕市 オ 三条市 カ 弥彦村 キ 分水町 ク 寺泊町 ケ 岩室村 コ 長岡市
サ 新潟市 シ その他

【平日：月曜日～金曜日】

利用する手段	利用頻度					主な行き先地
①バス	週 5 日	週 4 日～3 日	週 2 日～1 日	月に1日以上	ほとんど利用しない	()
②JR	週 5 日	週 4 日～3 日	週 2 日～1 日	月に1日以上	ほとんど利用しない	()
③自家用車	週 5 日	週 4 日～3 日	週 2 日～1 日	月に1日以上	ほとんど利用しない	()
④タクシー	週 5 日	週 4 日～3 日	週 2 日～1 日	月に1日以上	ほとんど利用しない	()
⑤自転車	週 5 日	週 4 日～3 日	週 2 日～1 日	月に1日以上	ほとんど利用しない	()
⑥徒歩	週 5 日	週 4 日～3 日	週 2 日～1 日	月に1日以上	ほとんど利用しない	()

【休日：土曜日・日曜日】

利用する手段	利用頻度				主な行き先地
①バス	月に8日以上	月に7日～4日	月に3日～1日	ほとんど利用しない	()
②JR	月に8日以上	月に7日～4日	月に3日～1日	ほとんど利用しない	()
③自家用車	月に8日以上	月に7日～4日	月に3日～1日	ほとんど利用しない	()
④タクシー	月に8日以上	月に7日～4日	月に3日～1日	ほとんど利用しない	()
⑤自転車	月に8日以上	月に7日～4日	月に3日～1日	ほとんど利用しない	()
⑥徒歩	月に8日以上	月に7日～4日	月に3日～1日	ほとんど利用しない	()

3. 吉田町の国道116号について

Q1 あなたは、国道116号の朝・夕の通勤・通学の時間帯における道路交通渋滞についてどこまで我慢できますか。この中から1つだけ選び、()に○をご記入ください。

- ①走行速度は規制速度近くまでスピードを出せる状態でなければならない ()
- ②走行速度は常に30km/h以上確保されていなければならない ()
- ③朝・夕の一時的なものであれば、走行速度が0～30km/hであってもやむを得ない ()
- ④朝・夕の一時的なものであれば、どんなに渋滞してもやむを得ない ()
- ⑤その他()

Q2 国道116号の道路交通の円滑化のために何らかの対策が必要であると考えますか。この中から1つだけ選び、()に○をご記入ください。

- ①何らかの対策が必要である () →(Q3へ)
- ②対策は必要としない () →(Q4へ)

Q3 Q2で①を回答した方は、どのような対策が必要であると思われますか。この中からいくつでもあげ、()に○をご記入ください。

- ①住民に現状を認識してもらうため、道路交通など様々な情報発信が必要である ()
- ②現在の国道を広げたり、立体化したり、別に新たな道路を設けたり、信号交差点に右折車線や左折車線を設けるなど、道路施設に関する整備が必要である ()
- ③時差出勤、グループで車1台、自動車通勤している人達はJR等に切り換えるなど、道路利用者も交通量を減らす努力が必要である。 ()
- ④その他()

Q4 Q2で②を回答した方は、その理由について以下にご記入ください。

4. あなた自身について

Q1 今後、道づくりなどに関して住民とともに提言書を作成していきたいと考えております。このような活動の場に参加したいと思いますか。この中から1つだけ選び、()に○をご記入ください。

- ①そのような場があれば積極的に参加したい () →(Q2 へ)
- ②知ってる人が参加するのであれば参加したい () →(Q2 へ)
- ③声をかけられれば参加しても良い () →(Q2 へ)
- ④忙しいので参加できない ()
- ⑤面倒なので参加しない ()

Q2 Q1 で①～③を回答した方で、そのような参加の場を開催する場合、いつが参加しやすいとお考えですか。この中から1つだけ選び、()に○をご記入ください。

- ①平日の夜(19:00 時くらいから) ()
- ②土曜日の午後 ()
- ③土曜日の夜(19:00 時くらいから) ()
- ④日曜日の午後 ()
- ⑤日曜日の夜(19:00 時くらいから) ()
- ⑥その他()

Q3 以下の項目について該当する()に○をご記入下さい。

- ①性 別 :男 () 女 ()
- ②年 齢 :20 代 () 50 代 ()
30 代 () 60 代 ()
40 代 () 70 代以上 ()
- ③職 業 :会社員 () パート・アルバイト ()
公務員 () 学生 ()
農業従事者 () 家事専業 ()
自営業 () その他 ()
- ④居住年数 :2年未満 () 10 年～20 年未満 ()
2 年～5 年未満 () 20 年以上 ()
5 年～10 年未満 () わからない ()

⑤お住まい :西蒲原郡吉田町()

※「お住まい」は、記載者が解らないようにするため、吉田町以下の町名等までの記載として下さい。(番地までの記載は行わないで下さい)

⑥『みちづくり・まちづくりワークショップ』への現時点における参加希望
:参加を希望する ()
参加を希望しない ()

後日、参加の確認などを行いたいため、現時点で**参加を希望する方のみ**下記にお名前、ご住所、電話番号、メールアドレスの記載をお願い致します。

お名前	:	[	]
ご住所	:	[	]
電話番号	:	[	]
メールアドレス	:	[	]

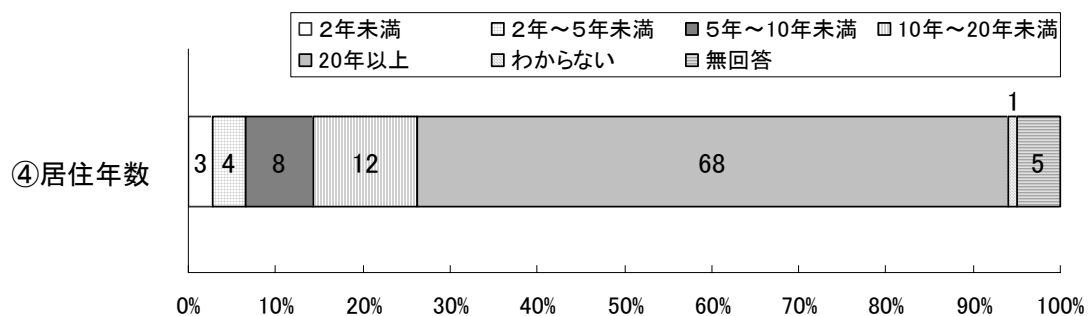
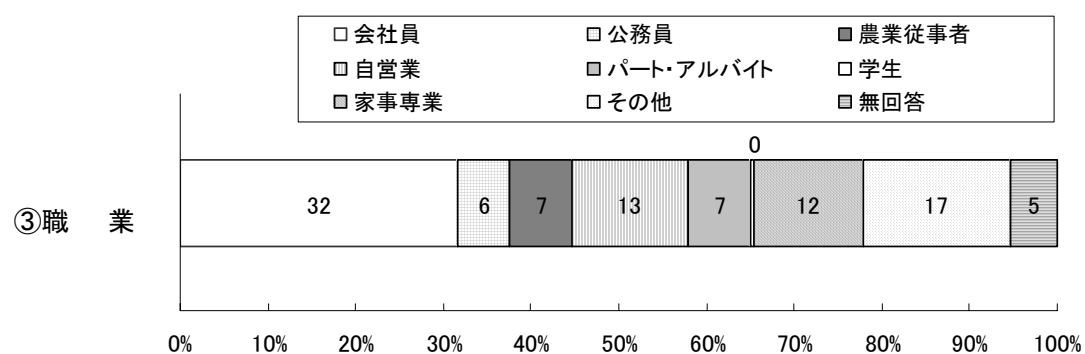
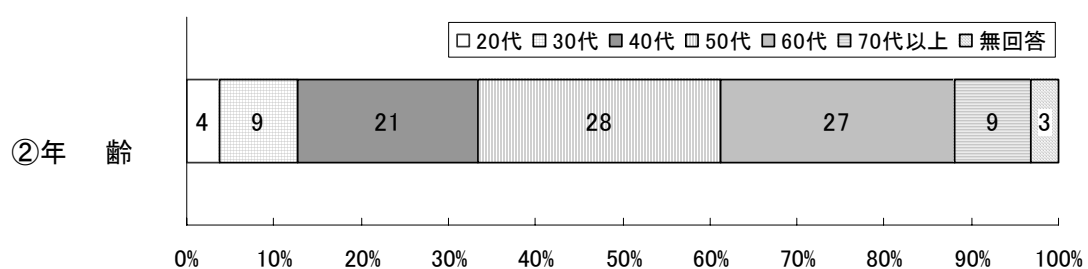
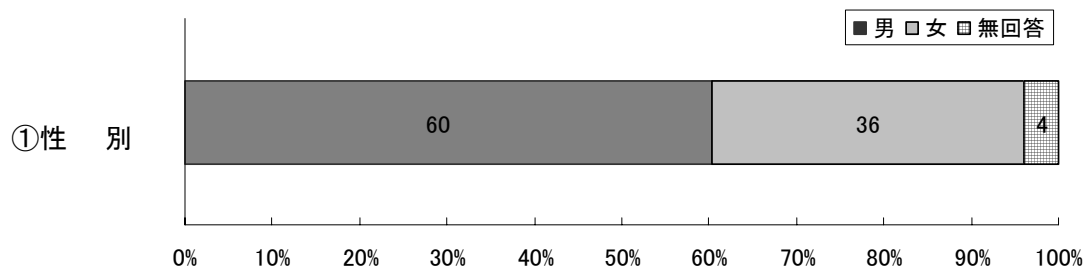
【お申し込みに際して、次の諸点にご留意下さい】

- 応募者多数の場合は、希望者の中から無作為抽出により選定する場合がありますのでご了承下さい。
- ワークショップへの参加は無償とします(日当・交通費等のお支払いはいたしません)。

ご協力ありがとうございました

4) アンケートの調査結果

➤ 回答者について



⑤居住地

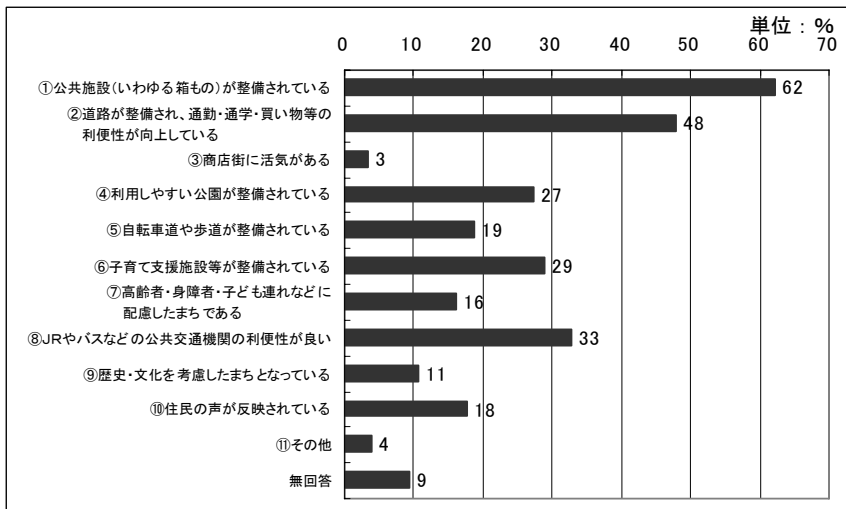
町名	回答数	町名	回答数	町名	回答数	町名	回答数
西太田	66	若生町	21	中町	10	上河原	2
東栄町	43	文京町	20	幸町	9	吉栄	2
米納津	43	曙町	18	溝古新	9	小島	1
旭町	40	寿町	18	春日町	8	西横新田	1
粟生津	38	日之出町	17	鴻巣	8	桃山町	1
大保町	37	浜首町	16	神明町	7	樋ノ口	1
弥生町	33	下町	15	高木村古新田	7	大保村新田	0
東町	31	神田町	15	溝	7	富永十兵衛新田	0
法花堂	31	本町	15	水道町	5	平井新田	0
佐渡山	29	堤町	13	宮小路	5	松岡新田	0
栄町	28	吉田	12	雀森	4	松橋	0
下中野	27	学校町	11	田中新	3		
富永	27	新町	11	松岡町	3	東栄町(職場、居住地は燕市)	1
本所	25	上町	10	野本新田	3	無回答	160
下粟生津	25	新田町	10	庚塚新田	2	計	1005

➤ アンケート回答者の状況について

- ・回答者は男性が60%を占め、年齢は50代・60代合わせて55%を占めている。
- ・職業は、会社員が32%と最も多く、次いでその他を除き自営業が13%、家事専門の12%となっている。
- ・回答者の町内分布状況は、広範に渡り回答を得ている。

➤ まちづくりについて

Q 1 吉田町のまちづくりで良い又は良くなっていると思われることは何ですか。(複数回答)

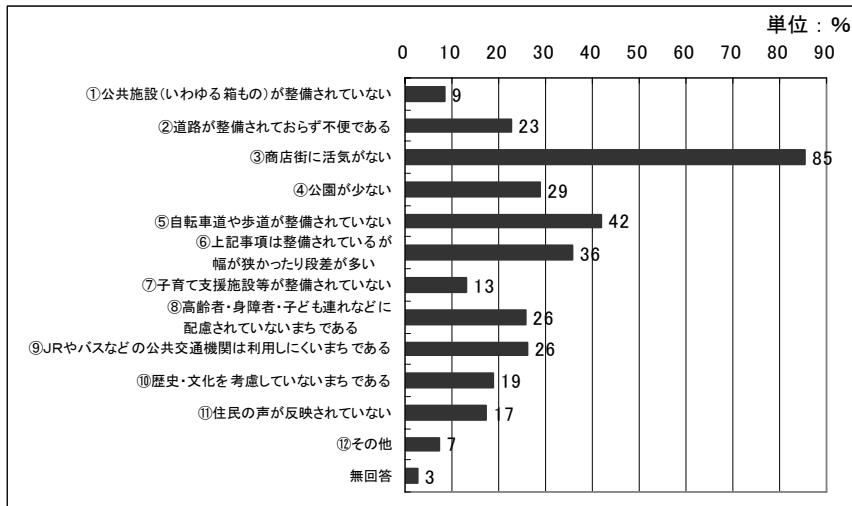


・「公共施設が整備されている」が62%で、もっとも多かった。

・「道路が整備され・・・」の回答が48%、「JR やバスなどの・・・」が33%となるなど、交通機関の利便性が良いと感じている方が多いことが分かった。

・「子育て支援施設等・・・」の回答が29%と、比較的多くの方が回答していた。

Q 2 吉田町のまちづくりで悪い又は悪くなっていると思われることは何ですか。(複数回答)

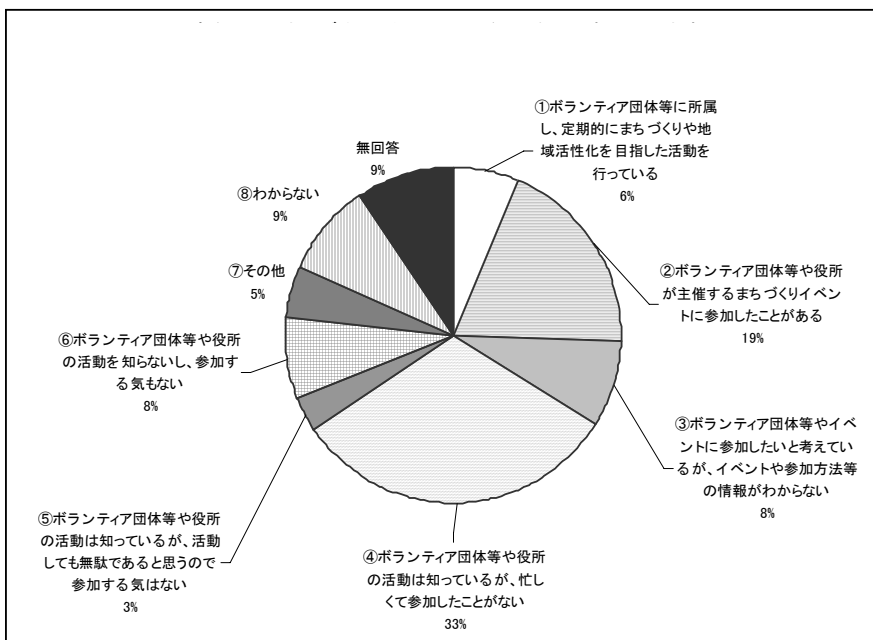


・「商店街の活気」について、回答者のほとんど(85%)が懸念していることが分かる。

・「自転車道や歩道・・・」が42%、「・・・幅が狭かったり・・・」が36%と多くの方が回答していた。

・「公園が少ない」が29%と比較的多くの方が回答していた。

Q 3 あなたは、まちづくり活動についてどのように関わっていますか。



・「実際に活動をしている」が6%、「ボランティア団体等や役所のイベントを通してまちづくりの活動に参加したことがある」が19%、合わせて全体の25%である。

・「参加したことがない」が33%、「参加する気がない(3%+8%=11%)」が、合わせて全体の44%であった。

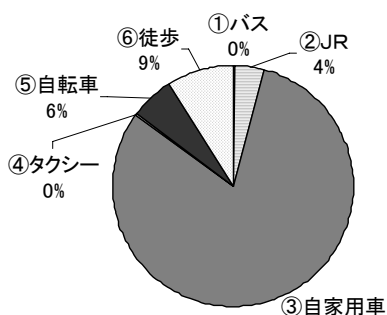
➤ 交通手段等について

- ・交通手段に関しては、休日・平日にかかわらず、ほとんどの利用頻度で自家用車が半数以上を占め、車が主な利用手段とされている。
- ・利用頻度が「ほとんどない」もののうち公共交通機関である JR、タクシー、バスの3手段をあわせると、平日が65%、休日が64%と半分以上の方が利用していないことがわかる。
- ・徒歩は、平日・休日とも利用頻度の違いに関わらず概ね10%程度である。
- ・平日の利用頻度が週2日～1日の中で、徒歩と自転車を含めると48%と約半数を占めている。

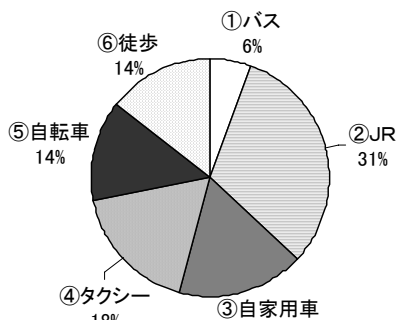
利用頻度別集計

【平日：月曜日～金曜日】

■ 週5日

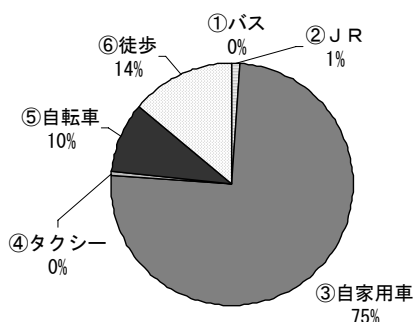


■ 月に1日以上

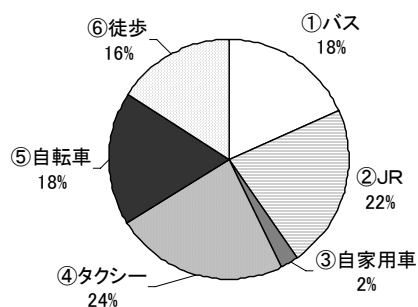


【休日：土曜日・日曜日】

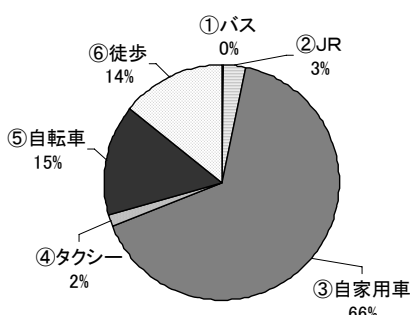
■ 月8日以上



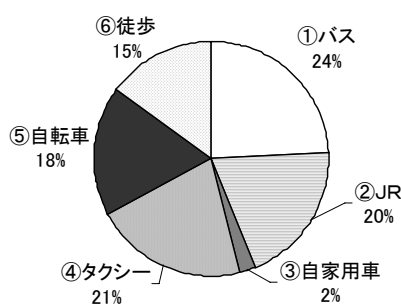
■ ほとんどない



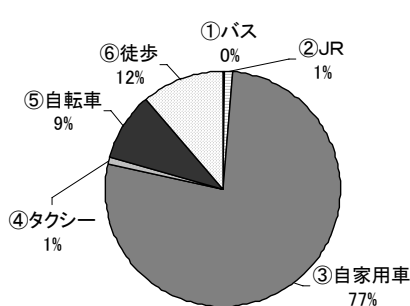
■ 週4日～3日



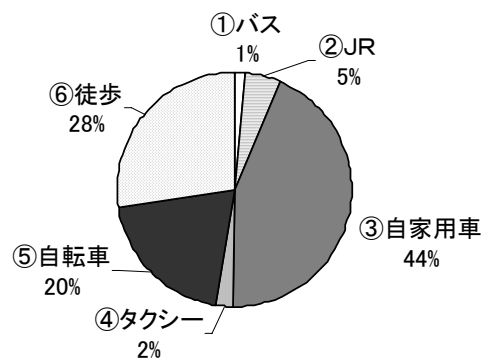
■ ほとんどない



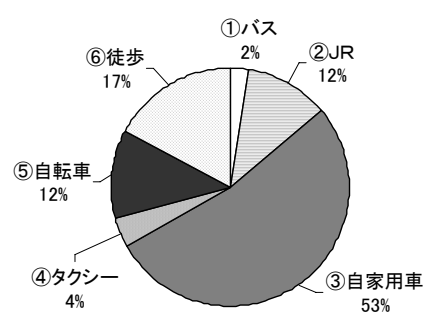
■ 月7日～4日



■ 週2日～1日



■ 月3日～1日



主な行き先地について

【平日：月曜日～金曜日】

頻度		週に 5 日						計
手段		①バス	②JR	③自家用車	④タクシー	⑤自転車	⑥徒歩	
ア	吉田町周辺商店街	0	0	17	0	8	13	38
イ	吉田地区国道 116 号商店街	0	0	104	0	6	6	116
ウ	左記以外の吉田町町内	0	0	123	1	13	18	155
エ	燕市	0	1	73	0	0	1	75
オ	三条市	0	0	38	0	0	1	39
カ	弥彦村	0	0	23	0	0	1	24
キ	分水町	0	1	24	0	0	1	26
ク	寺泊町	0	0	6	0	0	1	7
ケ	岩室村	0	0	8	0	0	1	9
コ	長岡市	0	0	8	0	0	0	8
サ	新潟市	1	15	41	0	0	1	58
シ	その他	0	2	41	0	2	4	49
計		1	19	506	1	29	48	604

頻度		週に 4 日～3 日						計
手段		①バス	②JR	③自家用車	④タクシー	⑤自転車	⑥徒歩	
ア	吉田町周辺商店街	0	0	13	0	4	8	25
イ	吉田地区国道 116 号商店街	0	0	81	2	10	9	102
ウ	左記以外の吉田町町内	1	0	31	0	20	14	66
エ	燕市	0	1	19	0	0	0	20
オ	三条市	0	1	14	0	0	0	15
カ	弥彦村	0	0	8	0	0	1	9
キ	分水町	0	0	3	0	0	0	3
ク	寺泊町	0	0	4	0	0	0	4
ケ	岩室村	0	0	2	0	0	0	2
コ	長岡市	0	0	2	0	0	0	2
サ	新潟市	0	4	7	0	1	0	12
シ	その他	0	0	5	2	0	3	10
計		1	6	189	4	35	35	270

頻度		週に 2 日～1 日						計
手段		①バス	②JR	③自家用車	④タクシー	⑤自転車	⑥徒歩	
ア	吉田町周辺商店街	0	0	6	0	10	19	35
イ	吉田地区国道 116 号商店街	2	1	69	1	27	23	123
ウ	左記以外の吉田町町内	0	0	15	3	26	39	83
エ	燕市	1	0	11	1	0	0	13
オ	三条市	1	1	16	0	0	0	18
カ	弥彦村	0	2	4	0	0	0	6
キ	分水町	0	0	1	0	0	0	1
ク	寺泊町	0	0	3	0	0	0	3
ケ	岩室村	0	0	2	0	0	0	2
コ	長岡市	0	1	2	0	0	0	3
サ	新潟市	0	9	14	0	0	1	24
シ	その他	1	2	8	1	0	2	14
計		5	16	151	6	63	84	325

頻度	月に1日以上						計
手段	①バス	②JR	③自家用車	④タクシー	⑤自転車	⑥徒歩	
ア 吉田町周辺商店街	0	0	0	5	5	7	17
イ 吉田地区国道 116 号商店街	0	1	11	3	13	12	40
ウ 左記以外の吉田町町内	0	0	5	18	12	16	51
エ 燕市	1	8	4	5	1	1	20
オ 三条市	0	6	8	1	0	0	15
カ 弥彦村	0	1	2	2	1	0	6
キ 分水町	0	0	0	0	0	0	0
ク 寺泊町	0	0	1	0	0	0	1
ケ 岩室村	1	0	0	3	0	0	4
コ 長岡市	0	0	1	0	0	0	1
サ 新潟市	11	54	14	0	0	0	79
シ その他	1	9	2	6	1	0	19
計	14	79	48	43	33	36	253

頻度	ほとんどない						計
手段	①バス	②JR	③自家用車	④タクシー	⑤自転車	⑥徒歩	
ア 吉田町周辺商店街	0	0	0	1	1	0	2
イ 吉田地区国道 116 号商店街	0	0	0	0	2	1	3
ウ 左記以外の吉田町町内	0	0	0	0	1	0	1
エ 燕市	1	0	0	3	0	0	4
オ 三条市	0	1	0	0	0	0	1
カ 弥彦村	0	0	0	0	0	0	0
キ 分水町	0	0	0	0	0	0	0
ク 寺泊町	0	0	0	0	0	0	0
ケ 岩室村	0	0	0	0	0	0	0
コ 長岡市	0	0	0	0	0	0	0
サ 新潟市	4	2	2	0	0	0	8
シ その他	0	1	0	0	0	0	1
計	5	4	2	4	4	1	20

頻度	利用頻度回答無し						計
手段	①バス	②JR	③自家用車	④タクシー	⑤自転車	⑥徒歩	
ア 吉田町周辺商店街	1	0	1	1	0	1	4
イ 吉田地区国道 116 号商店街	1	0	4	1	1	1	8
ウ 左記以外の吉田町町内	1	0	1	1	2	1	6
エ 燕市	1	0	5	0	1	0	7
オ 三条市	0	1	5	0	0	0	6
カ 弥彦村	0	0	0	0	0	0	0
キ 分水町	0	0	0	0	0	0	0
ク 寺泊町	0	0	0	0	0	0	0
ケ 岩室村	0	0	0	0	0	0	0
コ 長岡市	0	0	0	0	0	0	0
サ 新潟市	0	1	4	0	1	0	6
シ その他	0	0	0	0	0	0	0
計	4	2	20	3	5	3	37

主な行き先地について

【休日：土曜日・日曜日】

頻度		月に 8 日以上						計
手段		①バス	②JR	③自家用車	④タクシー	⑤自転車	⑥徒歩	
ア	吉田町周辺商店街	0	0	9	0	4	5	18
イ	吉田地区国道 116 号商店街	0	0	85	0	7	9	101
ウ	左記以外の吉田町町内	0	0	41	0	11	16	68
エ	燕市	0	2	24	0	0	0	26
オ	三条市	0	0	22	0	0	0	22
カ	弥彦村	0	0	4	0	0	0	4
キ	分水町	0	0	5	0	0	0	5
ク	寺泊町	0	0	2	0	0	0	2
ケ	岩室村	0	0	3	0	0	0	3
コ	長岡市	0	0	6	0	0	0	6
サ	新潟市	0	2	30	0	0	0	32
シ	その他	0	0	12	1	2	1	16
計		0	4	243	1	24	31	303

頻度		月に 7 日～4 日						計
手段		①バス	②JR	③自家用車	④タクシー	⑤自転車	⑥徒歩	
ア	吉田町周辺商店街	0	0	10	0	4	5	19
イ	吉田地区国道 116 号商店街	0	0	119	0	11	9	139
ウ	左記以外の吉田町町内	0	0	31	1	12	18	62
エ	燕市	0	0	32	0	0	0	32
オ	三条市	0	0	41	0	0	0	41
カ	弥彦村	0	1	12	0	0	0	13
キ	分水町	0	0	6	0	0	0	6
ク	寺泊町	0	0	3	0	0	0	3
ケ	岩室村	0	0	3	0	0	0	3
コ	長岡市	0	0	6	0	0	0	6
サ	新潟市	0	2	47	1	0	0	50
シ	その他	0	0	17	1	3	3	24
計		0	3	327	3	30	35	398

頻度		月に 3 日～1 日						計
手段		①バス	②JR	③自家用車	④タクシー	⑤自転車	⑥徒歩	
ア	吉田町周辺商店街	0	0	9	6	8	16	39
イ	吉田地区国道 116 号商店街	0	1	70	2	24	28	125
ウ	左記以外の吉田町町内	0	0	18	7	28	31	84
エ	燕市	0	1	36	2	1	0	40
オ	三条市	0	3	59	1	1	1	65
カ	弥彦村	0	2	7	1	0	3	13
キ	分水町	0	0	0	0	0	0	0
ク	寺泊町	0	0	6	0	0	0	6
ケ	岩室村	0	0	1	1	0	0	2
コ	長岡市	0	0	10	0	0	0	10
サ	新潟市	8	45	83	0	0	1	137
シ	その他	2	4	22	2	0	1	31
計		10	56	321	22	62	81	552

頻度		ほとんどない						計
手段		①バス	②JR	③自家用車	④タクシー	⑤自転車	⑥徒歩	
ア	吉田町周辺商店街	0	0	0	1	0	1	2
イ	吉田地区国道 116 号商店街	0	1	1	0	0	0	2
ウ	左記以外の吉田町町内	0	0	0	0	0	0	0
エ	燕市	0	0	0	1	0	0	1
オ	三条市	0	0	0	0	0	0	0
カ	弥彦村	0	0	0	0	0	0	0
キ	分水町	0	0	0	0	0	0	0
ク	寺泊町	0	0	0	0	0	0	0
ケ	岩室村	0	0	0	0	0	0	0
コ	長岡市	0	0	0	0	0	0	0
サ	新潟市	5	4	0	0	0	0	9
シ	その他	0	1	3	0	1	0	5
計		5	6	4	2	1	1	19

頻度		利用頻度回答無し						計
手段		①バス	②JR	③自家用車	④タクシー	⑤自転車	⑥徒歩	
ア	吉田町周辺商店街	0	0	3	1	2	3	9
イ	吉田地区国道 116 号商店街	0	0	5	2	2	3	12
ウ	左記以外の吉田町町内	0	1	3	1	0	1	6
エ	燕市	0	0	4	0	0	0	4
オ	三条市	0	1	6	0	0	0	7
カ	弥彦村	0	0	1	0	0	0	1
キ	分水町	0	0	0	0	0	0	0
ク	寺泊町	0	0	0	0	0	0	0
ケ	岩室村	0	0	0	0	0	0	0
コ	長岡市	0	0	0	0	0	0	0
サ	新潟市	0	1	8	1	0	0	10
シ	その他	0	0	0	0	0	0	0
計		0	3	30	5	4	7	49

平日の場合

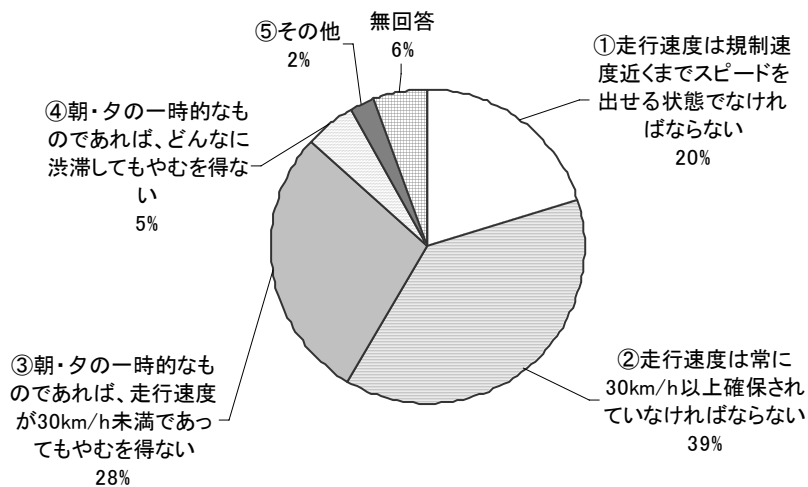
- ・手段ごとの回答数の多さは、概ね自家用車、徒歩、自転車という順であり、圧倒的に自家用車による利用が多い。
- ・頻度の多い（週に 3 日～5 日）場合の行き先地は、自家用車の場合は「イ」、「ウ」が多く、次いで「エ」という順で、徒歩・自転車ともに「ウ」が最も多く、次いで「ア」、「イ」が多い。
- ・JR は、「週に 5 日」で 15 人、「月に 1 日以上」で 54 人と、限定された条件の中で比較的多いことがうかがえた。

休日の場合

- ・手段ごとの回答数の多さは、平日と同様に概ね自家用車、徒歩、自転車という順であり、圧倒的に自家用車による利用が多い。
- ・頻度の多い（月に 4 日以上）場合の行き先地は、自家用車の場合は「イ」が最も多く、吉田町以外では「サ」が最も多い。次いで、「エ」と「オ」が多い。
- ・「月に 3 日～1 日」は、JR、自家用車とも行き先地は「サ」が最も多い。また、タクシー利用者が合計で 22 人と比較的多いことがわかった。

➤ 国道116号について

Q1 あなたは、国道116号の朝・夕の通勤・通学の時間帯における道路交通渋滞について、どこまで我慢できますか。

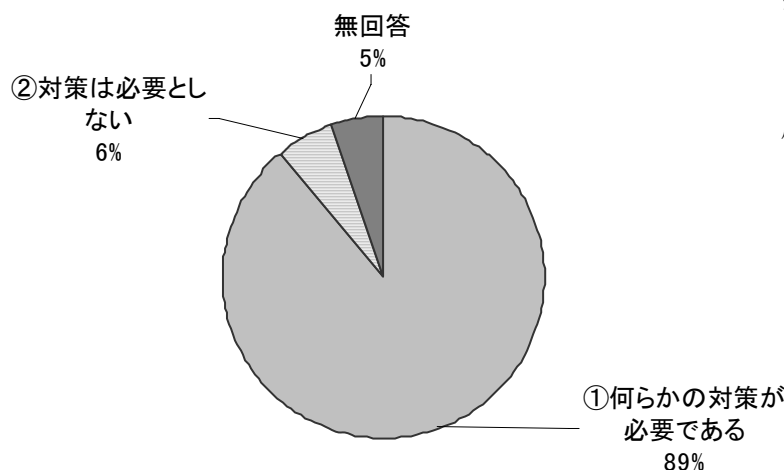


・「渋滞はやむを得ない」が5%、「走行速度が30km/h未満であってもやむを得ない」が28%と、合わせて全体の33%であった。

・これに対し、「走行速度は30km/h以上確保」が39%、「規制速度近くまで出せる状態ではない」が20%と、合わせて全体の59%を占めていた。

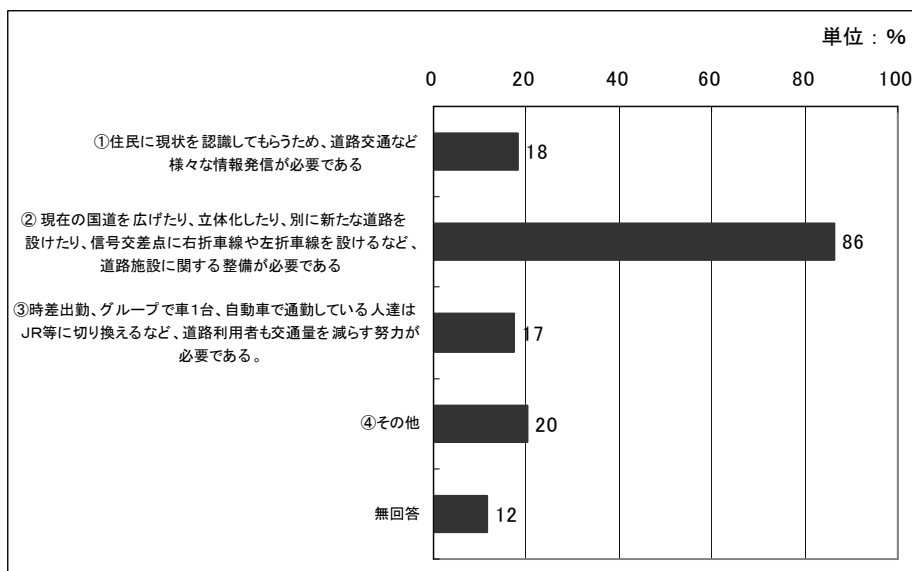
Q2 国道116号の道路交通の円滑化のために何らかの対策が必要であると考えますか。

※次ページの図を参照とする。



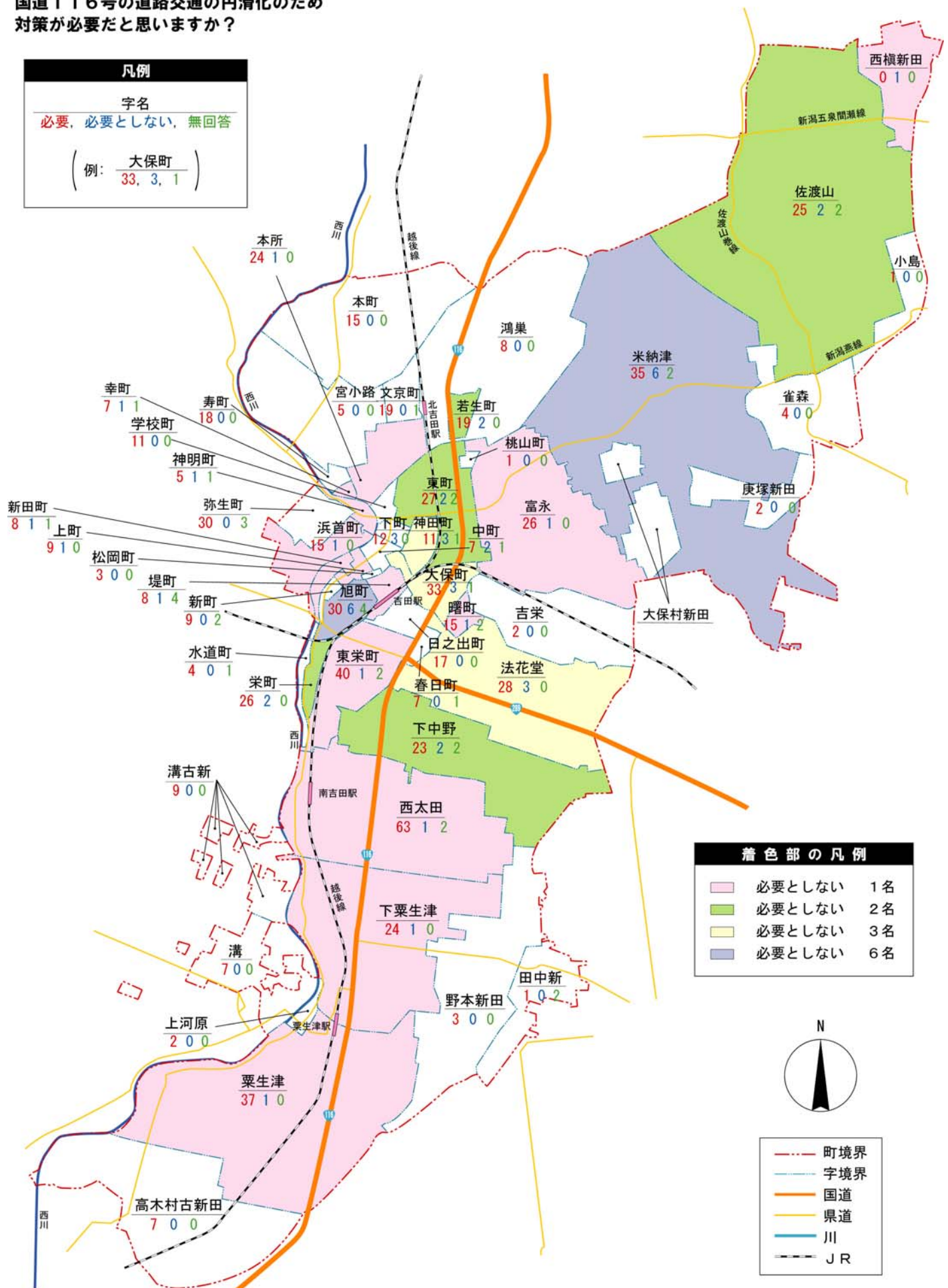
・「何らかの対策が必要」が89%と圧倒的に多くの方が回答していた。

Q3 Q2で①を回答した方は、どのような対策が必要であると思われますか。(複数回答)

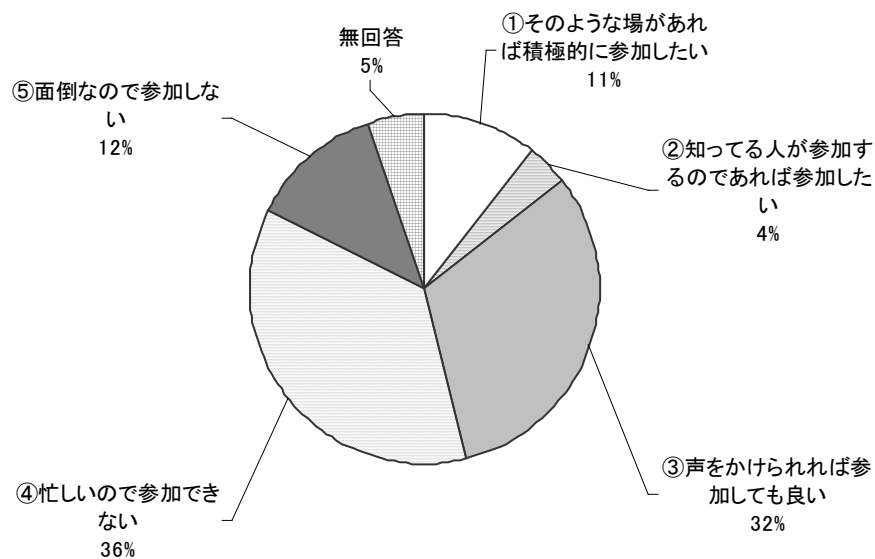


・「現道の国道を広げたり・・・」というハード整備に関する回答が86%と圧倒的に多くの方が回答していた。

国道116号の道路交通の円滑化のため
対策が必要だと思いますか？

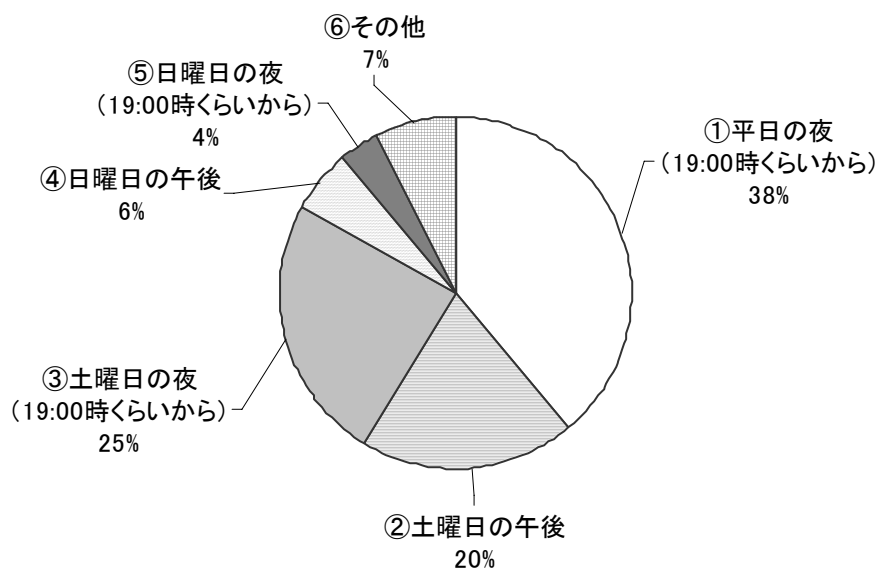


Q1 ■今後、道づくりなどに関して住民とともに提言書を作成していきたいと考えております。このような活動の場に参加したいと思いますか。



・「積極的な参加希望」は11%、「知っている人が・・・」と「声をかけられれば・・・」という方を合わせると36%であった。
 ・「参加しない・できない」は合わせて48%と半分を占めた。

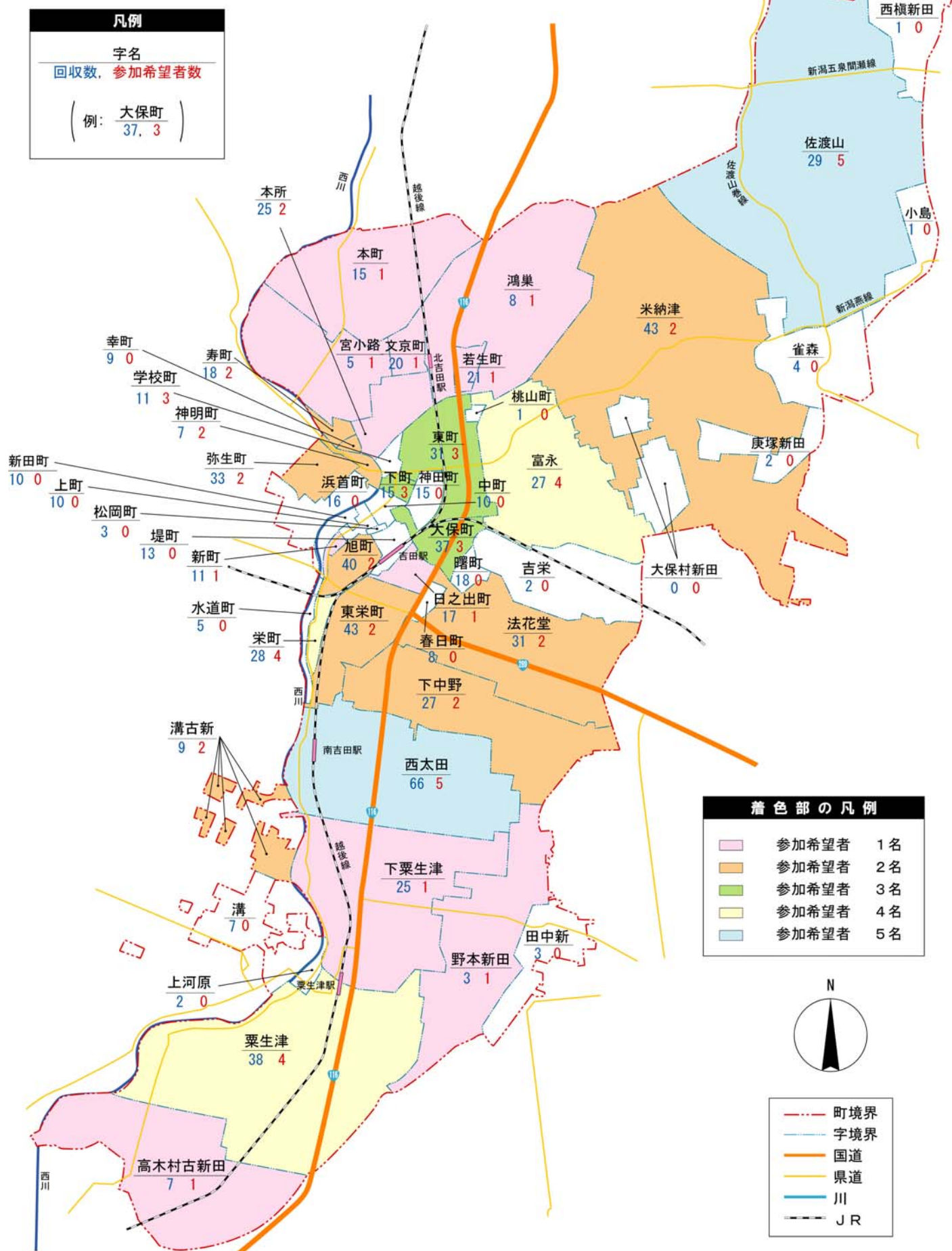
Q2 ■Q1で①～③を回答した方で、そのような参加の場を開催する場合、いつが参加しやすいとお考えですか。



※次ページの図を参照とする。

・参加の意志を少しでも持っている方の問いについては、「平日の夜」が38%と最も多かった。
 ・二番目に多かったのは、土曜日の夜であった。

アンケート回収の分布状況と
ワークショップ参加希望者数



3. ニュースレター

吉田町の

これからのみちづくり・まちづくりに あなたも参加しませんか？

平成15年3月より「みちづくり・まちづくりワークショップ」がスタートします。



参加者募集！

12月9日開催の吉田町都市計画審議会において「吉田町まちづくり整備計画」（まちづくり委員会策定）が今後のまちづくりの指針として採択されました。

そこでこの整備計画の主軸であり、地域にとって大切な国道116号のこれからのあり方、みちを軸としたまちづくりのあり方について、皆さんとともに「学び・話し・動く」場として「みちづくり・まちづくりワークショップ」を開催いたします。

「地域インフラ研究会」は、国土交通省新潟国道事務所の委託と吉田町の協力により、住民が主体となるこれからのまちづくりの支援を目指します。

詳しくは裏面を

特定非営利活動法人
地域インフラ研究会

「みちづくり・まちづくりワークショップ」とは？

ワークショップではどんなことするの？

- ・国道116号やまちのこれからのあり方について住民のみなさんと語り合います。
- ・語り合った結果を、これからのみちづくりやまちづくりに反映させたいと考えています。



今後の日程は？

- ・第1回目は平成15年3月に開催する予定です。参加希望の吉田町住民の方は、2月1日発行の「広報よしだ」に添付される「吉田町みちづくり住民アンケート調査」の希望欄に必要事項を記入のうえ投函ください。
- ・平成15年度には、数回の開催を予定しています。

これまでどんな「みちづくり・まちづくり活動」が行われてきたの？

吉田町が取り組んできた最近の主な「みちづくり・まちづくり活動」を紹介します。

吉田町都市計画策定委員会

開催時期：平成6年8月～平成7年2月
委員構成：住民、学識経験者、議会、農業委員会、商工会、町内会連合会、企業、金融機関、県、吉田町
内 容：20年後の吉田町の姿を描く「都市計画マスタープラン」が策定されました。

県央西部地域道路計画検討委員会

開催時期：平成9年8月～平成10年3月
委員構成：国、県、燕市、岩室村、弥彦村、吉田町
内 容：県央西部地域における広域的な道路事業整備を目的とした「県央西部骨格幹線道路網整備計画」が策定されました。

吉田町まちづくり委員会

開催時期：平成12年2月～平成14年11月
委員構成：住民、学識経験者、商工会、町内会連合会、大字区長会、社会福祉協議会、土地改良区、国、県、岩室村、吉田町
内 容：国道116号吉田バイパスを主軸とした将来道路網と将来土地利用計画を盛り込んだ「吉田町まちづくり整備計画」が策定されました。

地域インフラ研究会とは？

「特定非営利活動法人 地域インフラ研究会」ってどんなグループなの？

地域インフラ研究会は、「みちづくり」や「まちづくり」などの様々な専門家が集まって『住民の自立的・主体的なまちづくり活動の支援』を行っている特定非営利活動法人(NPO法人)です。

このような「みちづくり・まちづくり活動」の支援を予定しています。

1月中に開設予定の、地域交流や情報発信を行う場である「地域情報発信拠点(仮称)」の設立・運営を核として活動していきます。平成15年3月までは下記の活動を予定しており、『住民と行政等が連携した新しいまちづくり体制』へとつなげていきたいと考えています。

- ① ニュースレター(みちづくり・まちづくり情報誌)の全戸配布 [随時]
- ② アンケートや聞き取りなどの住民意識調査の実施
- ③ 「みちづくり・まちづくりワークショップ」の開催
- ④ その他各種活動 [随時]



お問い合わせ：特定非営利活動法人 地域インフラ研究会
国土交通省 新潟国道事務所 調査課
吉田町役場 建設課

〒951-8153 新潟市文京町22-21
〒950-0912 新潟市南笹口2-1-65
〒959-0295 吉田町日之出町1-1

TEL/FAX 025-233-1250
TEL 025-246-7761/FAX 025-246-7763
TEL 0256-92-2111/FAX 0256-92-2110

※このお知らせは吉田町全戸に配布しています。

吉田 みちづくり・まちづくり 通信

今号の内容

- ① 今後のイベント予定について。
- ② ボランティア団体のみなさまとの意見交換会について。
- ③ 「(仮称)地域マネジメントセンターよしだ」の開設について。

編集・発行：(仮称) 地域マネジメントセンターよしだ [略称 RMC-Y]
住 所：〒959-0244 吉田町中町5-20
TEL/FAX：0256-92-8980

2003.03 Vol.

02

今後の主なイベント予定を紹介します！

「みちづくり説明会」

「みちづくり・まちづくりワークショップ」にさきがけて、区長や町内会長を対象として国道116号を中心としたみちづくりに関するこれからの進め方などについて説明会を開催します。

日 時：3月10日(月)
午前の部 11:00～12:00
午後の部 13:30～14:30
場 所：吉田町産業会館 視聴覚室
参加費：無料

「みちづくり・まちづくりワークショップ」

まちづくりの大きな役割を担う国道116号を中心としたこれからのあり方について、住民のみなさんと語り合います。語り合った結果を、これからのみちづくりやまちづくりに「市民提言書(案)」という形で反映させていきたいと考えています。現在約70名の参加申込があり、実現に向けた活動へと展開できるよう取り組んでいきたいと思ひます。

日 時：3月17日(月)
19:00～21:00
場 所：吉田町産業会館 第1会議室
参加費：無料

参加者募集！

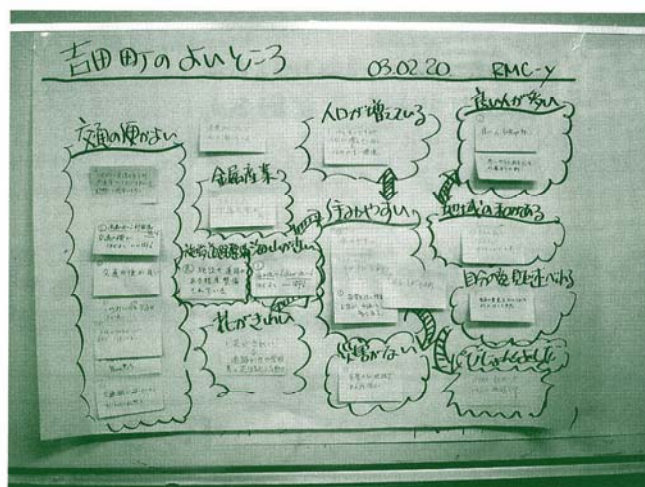


※多くの参加希望をいただき、ありがとうございました。
より多くの住民のみなさんと進めていきたいと考え、
ワークショップ参加希望の受付を続けています！
新たに参加をご希望の方はお手数ですが、「(仮称)地
域マネジメントセンターよしだ」まで直接ご連絡くだ
さい。また、すでに参加を希望されている方は、別途
ご連絡いたします。

ボランティア団体のみなさまと意見交換会を開催しました。

2月19・20日の両日、吉田町婦人会館内の「(仮称)地域マネジメントセンターよしだ」で、吉田町の官・民ボランティア団体の一部のみなさまと、吉田町の「みちづくり・まちづくり活動」を具体的に進めていくための意見交換会を開催しました。

「NPO法人ってなに?」・「どんな立場で何を
するの?」・「ボランティアグループはどう参加
するの?」・「話だけで終わらないか?」などの
いろいろなご意見・ご質問いただきました。み
なさまからのご意見等をふまえて、吉田町住民
を対象として3月17日に「みちづくり・まち
づくりワークショップ」を開催いたします。



意見の一部を紹介します

「(仮称)地域マネジメントセンターよしだ」を開設しました。
【略称 RMC-Y】

- 吉田町の「みちづくり・まちづくり」についての情報の受発信や地域交流を進めていくための拠点として、2月10日に開設しました。
- みちづくり・まちづくりに関する資料の展示をはじめ、グループでまちづくり・みちづくりを話し合うためのスペースなどがあります。
- 開館時間内はスタッフが常駐して対応いたします。
- みなさんとご一緒に、この拠点を育てていきたいと考えていますので、気軽にお立ち寄りいただき、ご意見などをお聞かせください。
- ただいまネーミングを募集しております。良いアイデアがありましたらぜひお聞かせください。



室内の様子

地域情報発信拠点

(仮称) 地域マネジメントセンター

よしだ

住 所：〒959-0244 吉田町中町5-20
(婦人会館2階)

TEL/FAX : 0256-92-8980

開館時間：当面は土・日・祝日を除く
13:00～19:00

この看板が目印です→



お問い合わせ：特定非営利活動法人 地域インフラ研究会
国土交通省 新潟国道事務所
吉田町建設課

〒951-8153 新潟市文京町22-21

〒950-0912 新潟市南樋口2-1-65

〒959-0295 吉田町日之出町1-1

TEL/FAX 025-233-1250

TEL 025-246-7761 / FAX 025-246-7763

TEL 0256-92-2111 / FAX 0256-92-2110

※このお知らせは吉田町全戸に配布しています。

吉田 みちづくり・まちづくり 通信

今号の内容

- ① 第1回ワークショップの様子
- ② 吉田町住民アンケート調査結果の一部紹介
- ③ これからの取り組み予定

編集・発行：地域マネジメントセンターよしだ【略称 RMC-Y】
(吉田町産業会館内)
TEL/FAX：0256-92-8980

2003. 10 Vol. **03**

『みちづくり・まちづくりワークショップ』がスタートしました！

3月17日、吉田町産業会館にて「第1回みちづくり・まちづくりワークショップ」を開催しました。このとりくみは、吉田町のまちづくりの中心である国道116号の今後のあり方について、皆さんと考えることを目的としています。

***** 大変遅くなりました *****

第1回ワークショップ（3月17日）が開催されました

当日は、国道116号の問題点、また吉田町のまちづくり整備計画について、国道を管理している新潟国道事務所および吉田町建設課から説明を聞いたあと、参加者の皆さんと日常生活における国道116号の問題点や課題について話し合いました。



今回出された意見については今後のワークショップで深く議論し、具体的な解決策を皆様と一緒に考えていきたいと思っています。

参加者からは、多くの活発な意見が出され、生活者の視点から見た現状の問題点や課題等を確認し合うことができました。



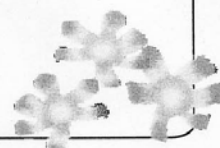
第2回ワークショップを開催致します。

日時 『11月11日 PM 7:00~9:00』

場所 『吉田町産業会館』

“皆様の参加をお待ちしています”

お申し込みは裏面をご覧ください。



住民アンケート調査を実施しました

アンケート調査は、一般国道116号に関する住民が望む整備方法の提案等を目的として、広範な住民意見の把握を目指して吉田町の全世帯を対象として実施致しました。

ご回答頂いた方には、お忙しい中、アンケート調査にご協力頂き大変ありがとうございました。この結果については、住民調査書(案)の作成における基礎資料として活用していきたいと考えております。以下に、アンケート調査結果の一部をお知らせ致します。

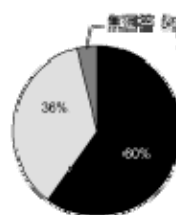
結果の詳細は、RMC-γでございますので、ぜひお立ち寄り下さい。

アンケート回収状況

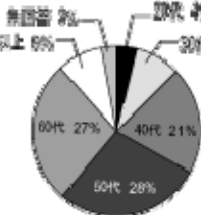
アンケート調査票配布数	回収数	回収率
8,331通	1,005通	12%

回答者について

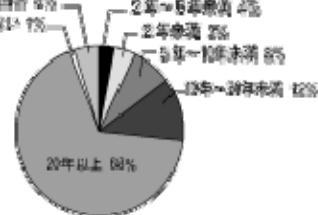
■ 特別



■ 経路



■ 居住函数



■ おしまい

西本田	7%
東本田	4%
米納達	4%
短崎	4%
栗生津	4%
大保町	4%
野保町	3%
法榮堂	3%
東町	3%
その他	60%

(※町、市町村、市など)

まちづくりについて

※各設問に対する回答は、上位3つについて記載しています。

【まちづくりで良い又は良くなっていると思われること：複数回答】

- | | |
|---------------------------------|-----|
| 1. 公共施設(いわゆる箱もの)が整備されている | 62% |
| 2. 道路が整備され、通勤・通学・買物等の利便性が向上している | 48% |
| 3. 駅やバスなどの公共交通機関の利便性が良い | 33% |

【まちづくりで悪い又は悪くなっていると思われること：複数回答】

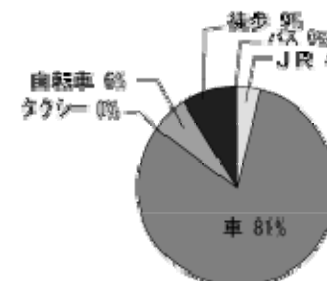
- | | |
|------------------------------|-----|
| 1. 商店街に活気がない | 83% |
| 2. 自転車道や歩道が整備されていない | 42% |
| 3. 上記事項は整備されているが幅が狭かったり段差が多い | 36% |

【まちづくり活動にどのように関わっていますか】

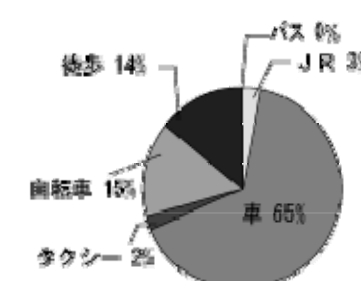
- | | |
|---|-----|
| 1. ボランティア団体等や役所の活動は知っているが、忙しくて参加したことがない | 32% |
| 2. ボランティア団体等や役所が主催するまちづくりイベントに参加したことがある | 19% |
| 3. ボランティア団体等やイベントに参加したいと考えているが、イベントや参加方法の情報が分からない | 8% |
| (回答数「分からない」98件のうち) | |

交通手段等について

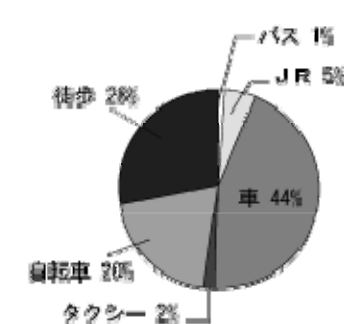
【平日：月曜日～金曜日】



■ 週4日～3日

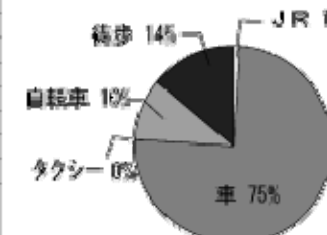


■ 週2日～1日

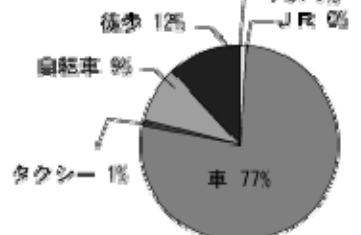


【休日：土曜日・日曜日】

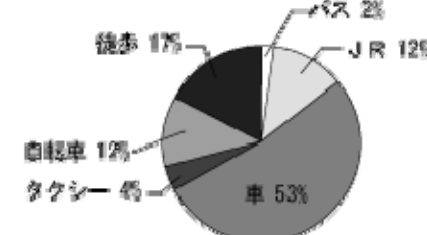
■ 2000 年 4 月 1 日



■ 月 7 日 ~ 4 日



100 99 98 97 96



国道116号について

※各設問に対する回答は、上位3つについて記載しています。

【朝・夕の通勤・通学の時間帯における道路交通渋滞についてどこまで把握できているか】

- | | |
|--|-----|
| 1. 走行速度は常に30km/h以上確保されていなければならない | 30% |
| 2. 朝・夕の一時的なものであれば、走行速度が30km/h未満であってもやむをえない | 28% |
| 3. 走行速度は規制速度速くまでスピードを上げる状態であなければならない | 20% |

【道路交通の円滑化のために何らかの対策が必要であると考えますか】

- | | |
|-----------------|-----|
| 1. 何らかの対策が必要である | 88% |
| 2. 対策は必要としない | 6% |
| 3. 無回答 | 5% |

【Q2で①を回答した方は、どのような対策が必要であると思われますか：複数回答】

- | | |
|---|-----|
| 1. 現在の国道を広げたり、立体化したり、別に新たな道路を設けたり、信号交差点に右折車線や左折車線を設けるなど、道路施設に関する整備が必要である。 | 86% |
| 2. 住民に現状を認識してもらうため、道路交通など様々な情報発信が必要である。 | 18% |
| 3. 時差出勤、グループで車1台、自乗車で通勤している人達にはJR等に切り換えるなど、道路利用者も交通量を減らす努力が必要である。 | 17% |

これからの取り組み予定

以下に示す活動を基本として取り組んでいく予定です。

● ワークショップ（WS）

参加対象者は吉田町住民を基本とし、その総意の把握を目的として開催します。

	開催予定日	概要
第2回	11月11日（火）	国道116号の問題点の再認識と必要な対策
第3回	12月中旬	問題箇所の現地調査
第4回以降	第2回、第3回の状況を踏まえた上今後決定を行います	

ワークショップ参加者募集!!
(年齢制限はありません)

● 申込み方法

下記のお問い合わせ先までご連絡下さい。



● ニュースレター

平成15年度は今回を含め3回の配布を予定しています。

● ミニワークショップの開催

ワークショップを欠席したり、参加したけれど理解が出来なかった方などを対象とし、フォローアップの場として、状況に応じて開催していきます。

● その他

- ・「地域マネジメントセンターよしだ」は10月下旬から再び開設致します。
開設時間等は地域インフラ研究会のホームページ等でご案内させていただきます。
- ・上記以外の活動も行っていきたいと考えており、現在検討中です。



お問い合わせ： 特定非営利活動法人 地域インフラ研究会

〒951-8153 新潟市文京町6-7

TEL/FAX025-233-2270

URL <http://www.t-infra.or.jp>

国土交通省 新潟国道事務所 調査課

〒950-0912 新潟市南笹口2-1-65

TEL 025-246-7761/FAX 025-246-7763

吉田町建設課

〒959-0295 吉田町日之出町1-1

TEL 0256-92-2111/FAX 0256-92-2110

※このお知らせは吉田町全戸に配布しています。

吉田 みちづくり・まちづくり 通信

今号の内容

- ① 第2回ワークショップの様子
- ② 今後の予定

編集・発行：地域マネジメントセンターよしだ [略称 RMC-y]
(吉田町産業会館内)
TEL/FAX：0256-92-8980
開設時間：毎週月・水・金曜日
13時～17時

移転しました

2003.12 Vol. **04**

去る11月11日(火)、吉田町産業会館において、
第2回「みちづくり・まちづくりワークショップ」を開催しました。
当日は、前回出された国道116号の
問題点を確認し、その具体的な場所や
状況について意見交換を行いました。



以上の意見から国道116号の車道や歩道の問題箇所が明らかになりました。
今後のワークショップでは、渋滞対策、沿道環境対策、歩道対策など関連するテーマについて考えていく予定です。

なお、今年度は、既に一部進められている歩道事業等も含めて、国道116号の整備の方向性を全体的な視点で考えていきます。

次回ワークショップは、12月16日(火)に開催します

(※ 詳細については、裏面をご参照下さい →)

◆今後の予定

第3回「みちづくり・まちづくりワークショップ」

日 時：12月16日（火）19時～21時
場 所：吉田町産業会館 多目的ホール
テーマ：国道116号の整備の方向性

※ 引き続きワークショップに参加して下さる方を募集しています。
参加を希望される方は、下記宛先までお問い合わせ下さい。

	開催予定日	テーマ
第1回	3月17日終了	これからの進め方に関するルールの共有
第2回	11月11日終了	問題意識の共有
第3回	12月16日（火）	国道116号の整備の方向性
第4回	平成16年1月	整備方針の検討
第5回	平成16年2月	提言書の骨子の確認

ワークショップ参加者募集
年齢制限はありません！

◎「みちづくり・まちづくりワークショップ」の目的

このワークショップは、「吉田町地区の国道116号の整備の方向性」等について、住民の皆様と行政が一緒になって考えていくために開催しています。

国道116号の大きな問題点である「交通渋滞」等の解決策は、一般的に「車線数を増やす」ことが考えられています。

車線数を増やすためには、車道だけでなく歩道等を含めて、どの様に整備していくかを考えていく必要があります。

例：「他の場所に道路を造る」「今ある道路を拡げる」等

このため、平成12年度から事業を進めている富永交差点から西太田交差点までの自歩道整備および交差点改良計画についても「整備の方向性」と一体的に考えていかないと、「整備したものが無駄になる」可能性があることから、このワークショップのなかで一緒に考えていくことにしています。

多数の意見をお聞きしたいと思いますので、是非ともワークショップにご参加して頂きますようにご案内申し上げます。



お問い合わせ：特定非営利活動法人 地域インフラ研究会
〒951-8153 新潟市文京町6-7

TEL/FAX 025-233-2270
URL <http://www.t-infra.or.jp>

国土交通省 新潟国道事務所 調査課
〒950-0912 新潟市南笹口2-1-65
吉田町建設課
〒959-0295 吉田町日之出町1-1

TEL 025-246-7761/FAX 025-246-7763
TEL 0256-92-2111/FAX 0256-92-2110

※このお知らせは吉田町全戸に配布しています。

吉田 みちづくり・まちづくり 通信

今号の内容

- ① 第3回ワークショップ
- ② 次回ワークショップのお知らせ
- ③ 今後の予定

新年あけまして
おめでとうございます!

編集・発行：地域マネジメントセンターよしだ [略称 RMC-y]

(吉田町産業会館内)

TEL/FAX：0256-92-8980

開設時間：毎週月・水・金曜日
平日 13時～17時

新年は
1/14から開設します

2004.1 Vol. 05

◆第3回みちづくり・まちづくりワークショップ

バイパスの意見が多数!

昨年12月16日、吉田町産業会館にて、『第3回みちづくり・まちづくりワークショップ』を開催しました。

今回のワークショップでは「国道116号の整備の方向性」をテーマについて、新潟国道事務所より一般的な渋滞対策の紹介があり、その後、問題箇所の対策案について参加者の皆さんと意見交換を行いました。



一般的な渋滞対策のイメージ

(提供：新潟国道事務所)

バイパス整備の場合



- ・渋滞緩和、騒音低減、事故減少(〇)
- ・市街地から通過交通を排除(〇)
- ・大規模な土地の協力が必要(△)
- ・沿道に大型店等が出店すると現国道沿いの商店に影響が出てしまう(△)etc...

現国道拡幅整備の場合



- ・渋滞緩和、騒音低減、事故減少(〇)
- ・現在の国道を有効利用(〇)
- ・沿道建物の大規模な移転が生じる(△)
- ・中央分離帯があり横断ができない(△)

※(〇) 良いこと (△) 困ること

対策案として出された主な意見

参加者からは、国道116号吉田町地区の渋滞対策には「バイパス整備が最適」との意見が多数を占めました。主な意見は以下のとおりです。

- ◆渋滞対策には、バイパスによる現国道の通過交通の排除が最適。
- ◆短期的な対策には歩道設置や交差点改良が必要。
- ◆歩道なしのバイパスでも良いのでは。etc...



次回ワークショップは、1月28日(水)に開催します

(※ 詳細については、裏面をご参照下さい →)

◆次回ワークショップのお知らせ

第4回「みちづくり・まちづくりワークショップ」

日 時：1月28日（水）午後7：00～9：00

場 所：吉田町産業会館2F 多目的ホール

テーマ：「国道116号の整備方針の検討」

※ これまで参加されている方は、ぜひ引き続きのご参加をお願い致します。もちろん初参加者も大歓迎です。参加のお申し込み・お問い合わせは、下記までお願いいたします。



今回は、より現実的な視点で整備方針を考えます！

ワークショップでは、行政側から毎回様々な情報を提供してもらっています。道路や都市計画など、普段なかなか聞けない話が聞けるので、より具体的な話し合いができます。

次回ワークショップでは、

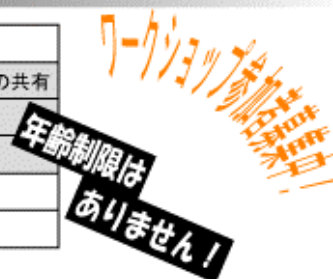
◆吉田町地区での具体的な検討

◆具体的な検討案についての「良い点」と「悪い点」

など具体的な情報提供をしてもらう予定です

◆今後の予定

	開催予定日	テーマ
第1回	3月17日終了	これからの進め方に関するルールの共有
第2回	11月11日終了	問題意識の共有
第3回	12月16日終了	国道116号の整備の方向性
第4回	平成16年1月	整備方針の検討
第5回	平成16年2月	提言書の骨子の確認



◎「みちづくり・まちづくりワークショップ」の目的

このワークショップは、「吉田町地区の国道116号の整備方針の検討」等について、住民の皆様と行政が一緒になって考えていくために開催しています。

※ワークショップの内容についてもっと知りたい方は、地域マネジメントセンターよしだ（産業会館1F）をぜひお訪ね下さい。資料などを多数ご用意しております。

お問い合わせ：特定非営利活動法人 地域インフラ研究会

〒951-8153 新潟市文京町6-7

【お申し込みはこちらまで！】

TEL/FAX 025-233-2270

URL <http://www.t-infra.or.jp>

国土交通省 新潟国道事務所 調査課

〒950-0912 新潟市南笹口2-1-65

TEL 025-246-7761/FAX 025-246-7763

吉田町建設課

〒959-0295 吉田町日之出町1-1

TEL 0256-92-2111/FAX 0256-92-2110



※このお知らせは吉田町全戸に配布しています。

◆今後の予定

第5回「みちづくり・まちづくりワークショップ」

日 時：2月27日（金）午後7：00～9：00

場 所：吉田町産業会館2F 多目的ホール

テーマ：「提言書(案)の骨子の確認」など



※ 前回までに参加されている方はぜひ引き続きのご参加をお願い致します。
もちろん初参加者も大歓迎です。参加のお申し込み・お問い合わせは、
下記宛先までお願い致します。

次回ワークショップでは…

◆提言書（案）骨子の確認◆

～提言書（案）骨子とは？～

* これまでのワークショップの結果をまとめ、国道116号整備の基本方針の
確認を行います。

◆バイパス計画を行う場合の留意点や想い◆

* 今までのワークショップで、「バイパス整備」に賛同される方が多数を占めて
いますので、「バイパス整備」の課題点とより良く使うための意見をうかがい
ます。

	開催予定日	テーマ
第1回	3月17日終了	これからの進め方に関するルール共有
第2回	11月11日終了	問題意識の共有
第3回	12月16日終了	国道116号の整備の方向性
第4回	1月28日終了	整備方針の検討
第5回	2月27日	提言書(案)の骨子の確認

ワークショップ参加者募集開始！
年齢制限はありません！

◆「みちづくり・まちづくりワークショップ」の目的

このワークショップは、まちづくりから見たみちづくりという視点から、
「これからの国道116号のあり方」について、住民の皆様と行政が一緒になって
考えていくために開催しています。

※ ワークショップの内容についてもっと知りたい方は、
『地域マネジメントセンターよしだ（産業会館1F）』をぜひお訪ね下さい。
資料などを多数ご用意しております。



お問い合わせ：特定非営利活動法人 地域インフラ研究会
〒951-8153 新潟市文京町6-7

国土交通省 新潟国道事務所 調査課
〒950-0912 新潟市南笹口2-1-65
吉田町建設課
〒959-0295 吉田町日之出町1-1

【当日参加も受け付けます！】

TEL/FAX 025-233-2270
URL <http://www.t-infra.or.jp>

TEL 025-246-7761 / FAX 025-246-7763

TEL 0256-92-2111 / FAX 0256-92-2110

※このお知らせは吉田町全戸に配布しています。

吉田 みちづくり・まちづくり 通信

今号の内容

- ① 第三者機関(委員会)を設置します
- ② 第5回ワークショップの様子
- ③ 今後の予定

編集・発行：地域マネジメントセンターよしだ [略称 RMC-y]

(吉田町産業会館内)

TEL/FAX: 0256-92-8980

開設時間：毎週月・水・金曜日 平日 13時～17時

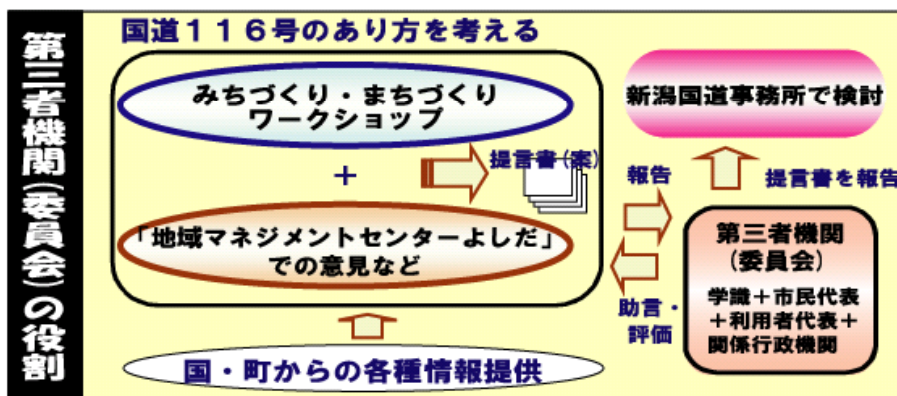
2004.9 Vol.

07

◆ 第三者機関(委員会)について **第三者機関(委員会)を設置します!!**

学識経験者、ワークショップ参加者の代表者、道路利用者、行政機関等によって構成される第三者機関(委員会)を設置します。

第三者機関(委員会)は、ワークショップ参加者が提言書(案)を作成するにあたっての助言を与えたり、内容の評価を行う機関として設置します。また、提言書としてとりまとめられた住民の意見を道路管理者に報告する役割も担っています。



◆ 第5回ワークショップの様子

ご報告が遅くなりましたが、去る2月27日(金)吉田町産業会館にて『第5回みちづくり・まちづくりワークショップ』が開催され、みちづくり・まちづくり提言書(案)骨子が参加者の中で確認されました。提言書(案)骨子は、これまでのワークショップの経緯を踏まえ、「吉田町地区における国道116号の慢性的な道路交通渋滞の抜本的な解決策は『バイパス整備』とする」といった内容が盛り込まれています。

みちづくり・まちづくり提言書(案)骨子に含まれる整備の方針は以下の2点です。

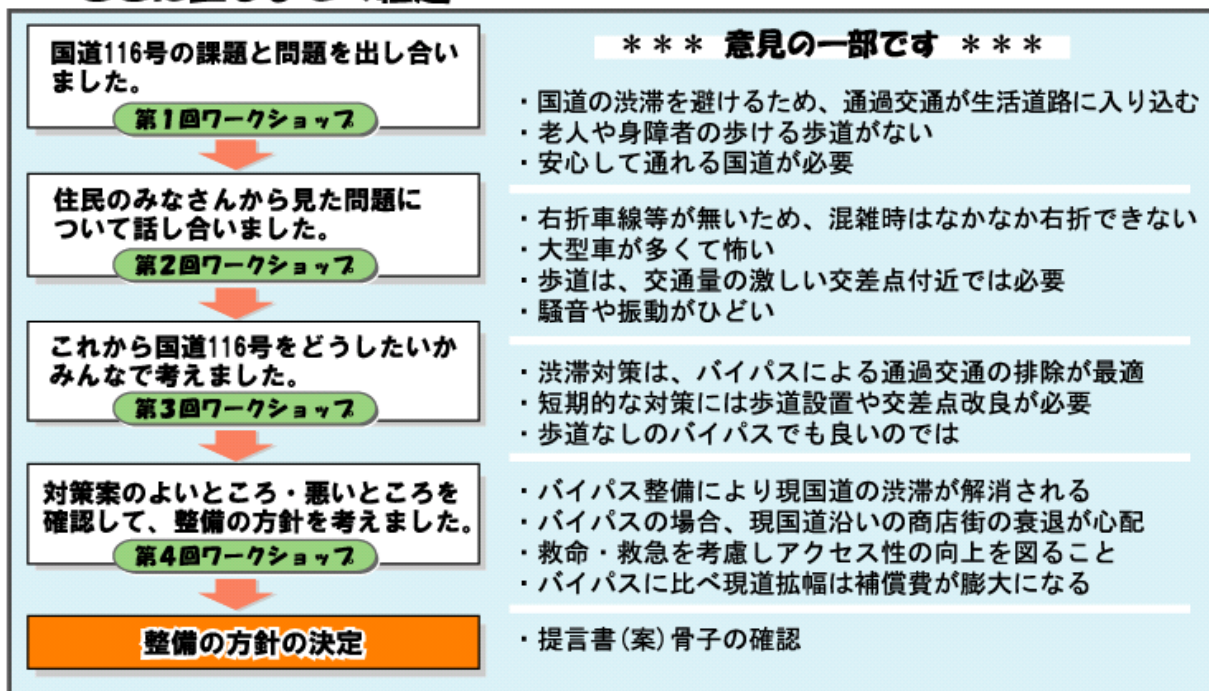
☆ 整備の方針 ☆

- 吉田町地区における国道116号の渋滞等の解決策は「バイパス整備」とする
- 現在の国道については、歩行者の安全を重視し、連続した歩道の設置と、主要な交差点の右折レーンの設置を行い、道路環境の改善を行う



この提言書(案)骨子は第三者機関(委員会)で審議され、助言と評価を受けることとなります。

～ここに至るまでの経過～



みんなでバイパス整備について考えてみました

提言書(案)骨子の確認を受け、グループワーキングを行いました。そこでは、航空写真を参考にバイパス整備における留意点や想いについて意見を出し合いました。

以下に、意見の一部を紹介します。

- ◇経済性に配慮する
- ◇公共施設、工業団地、住宅地などを避ける
- ◇JRとの交差箇所を少なくするため現国道に対して東側がよい
- ◇バイパスが整備されれば、今の国道は緑化などして魅力ある道にしたい



◆ 今後の予定

第1回目の第三者機関(委員会)を9月中旬に開催します。この第三者機関(委員会)の助言を受けて、第6回ワークショップを開催する予定としています。

◆ 「みちづくり・まちづくりワークショップ」の目的

このワークショップは、まちづくりから見たみちづくりという視点から、「これからの国道116号のあり方」について、住民の皆様と行政と一緒に考えていくために開催しています。

******* ワークショップの内容についてもっと知りたい方は *******

『地域マネジメントセンターよしだ(産業会館1F)』をぜひお訪ね下さい。

ワークショップ資料や提言書(案)骨子などを多数ご用意しております。

お問い合わせ： 特定非営利活動法人 地域インフラ研究会
〒951-8153 新潟市文京町6-7

TEL/FAX 025-233-2270
URL <http://www.t-infra.or.jp/>

国土交通省 新潟国道事務所 調査課
〒950-0912 新潟市南笹口2-1-65

TEL 025-246-7761/FAX 025-246-7763

吉田町建設課
〒959-0295 吉田町日之出町1-1

TEL 0256-92-2111/FAX 0256-92-2110

※このお知らせは吉田町全戸に配布しています。

吉田 みちづくり・まちづくり 通信

RMCよしだニューズレター「吉田みちづくり・まちづくり通信」

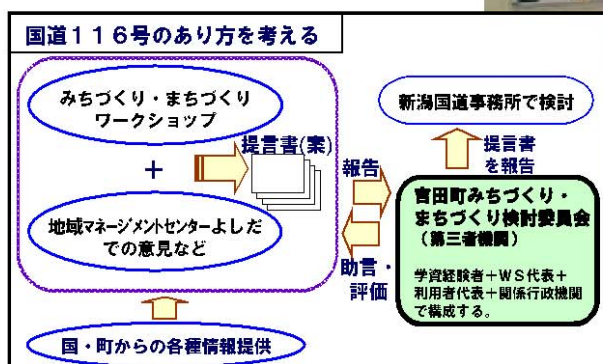
今号の内容

- ① 第1回吉田町みちづくり・まちづくり検討委員会
(第三者機関)の様子
- ② 今後の予定

編集・発行：地域マネジメントセンターよしだ【略称 RMC-y】
(吉田町産業会館内)
TEL/FAX：0256-92-8980
開設時間：毎週月・水・金曜日 平日 13時～17時

2004. 10 vol. 08

第三者機関（委員会）開催！！



名称：吉田町みちづくり・まちづくり検討委員会
開催日時：平成16年9月13日(月)10時～12時
開催場所：吉田町産業会館

前号で設置をお知らせしていた、第三者機関（委員会）が「吉田町みちづくり・まちづくり検討委員会」という名称で開催されました。座長には長岡技科大の佐野助教授が選出されました。

吉田町みちづくり・まちづくり検討委員会委員名簿(敬称略)

氏名	所属	氏名	所属
佐野 可寸志	長岡技科大助教授(専門:交通工学)	渡邊 誠介	長岡造形大助教授(専門:都市計画)
近藤 安男	ワークショップ参加者代表	山下 昌昭	道路利用者代表:(社)県トラック協会西燕支部長
泉 光一	吉田町町長	折谷 茂	新潟国道事務所副所長

◆委員会での議事

1. 住民参画の取り組みについて

(ワークショップでの取組内容と「みちづくり・まちづくり提言書(案)の骨子」の確認)

- ワークショップの参加者からは自分達のまちを良くしたいという意気込みが感じられる。
- 道路利用者として、渋滞の解消を期待している。今回の取り組みについてもPRしていきたい。
- 市町村合併の観点からも早期の計画決定を期待している。
- バイパス整備に関してネガティブな意見は少ないが、農地の大切さは理解してほしい。

提言書(案)の骨子(主旨)

1. 国道116号の渋滞等の解決策はバイパス整備が望ましい。
2. 現国道については、連続した歩道設置と主要交差点の右折レーン設置などの道路環境改善が望まれる。

◆委員会での議事

2. 吉田町まちづくり整備計画について (吉田町の将来像とまちづくりの進め方)

- 市町村合併が進められている中で、計画の見直しが必要である。
- バイパスの沿道開発を抑制できるかが課題となる。



3. 吉田町の道路整備計画について (国道116号整備計画)

- バイパスの整備により、中心市街地が衰退する事例がある。バイパス周辺の土地利用・位置付けが大切であり、全体のバランスを考慮する必要がある。
- 公園などと違って、道路に関しては住民主体による取り組みが難しいが、雑草の除去等道路管理の中で住民が関わっていくことができるので、道路整備を要望するだけでなく、その次の住民の行動が大切である。
- バイパスが整備された場合、現国道116号が地域住民のための道路となるよう期待している。

◆今後の予定

第6回「みちづくり・まちづくりワークショップ」

日時：平成16年10月19日(火)午後7時～9時

場所：吉田町産業会館2F 多目的ホール

テーマ：検討委員会の報告とルート帯(案)等の検討

※・今までご参加された方はぜひ引き続きのご参加をお願いします。また、初参加者も大歓迎です。
・「地域マネジメントセンターよしだ」に、これまでのワークショップの経緯や「吉田町地区みちづくり・まちづくりワークショップ提言書(案)の骨子」などの資料をとりそろえておりますので、ぜひ事前にご覧ください。

今年度のワークショップは、この第6回を含めて4回程度、検討委員会は今後2回の開催を予定しています。

◆検討委員会とワークショップの目的

吉田町みちづくり・まちづくり検討委員会

ワークショップ参加者が提言書(案)を作成するにあたっての助言を与えたり、内容の評価を行う機関であり、提言書としてとりまとめられた住民の意見を道路管理者に報告する役割を担います。

みちづくり・まちづくりワークショップ

まちづくりから見たみちづくりという視点から、「これからの一般国道116号のあり方」について、住民の皆様と行政が一緒になって考えていくために開催しています。

お問い合わせ： 特定非営利活動法人 地域インフラ研究会
〒951-8153 新潟市文京町6-7

TEL/FAX 025-233-2270
URL <http://www.t-infra.or.jp/>

国土交通省 新潟国道事務所 調査課
〒950-0912 新潟市南笹口2-1-65
吉田町建設課
〒959-0295 吉田町日之出町1-1

TEL 025-246-7761/FAX 025-246-7763
TEL 0256-92-2111/FAX 0256-92-2110

※このお知らせは吉田町全戸に配布しています。

今月の予定

- ① 第2回検討委員会開催のお知らせ
- ② 第6回ワークショップの様子
- ③ 今後の予定



編集：NPO法人 地域インフラ研究会

vol. 09

第2回検討委員会開催決定！

第2回「吉田町みちづくり・まちづくり検討委員会」

日時：平成17年9月30日（金） 午後2時～午後4時

場所：吉田町産業会館

テーマ：概略計画に関する検討

昨年度までに開催されたワークショップでの皆様の意見や技術的検討結果に基づいて、構想ルート帯の位置や範囲（起点・終点）、主たる構造等について検討します。

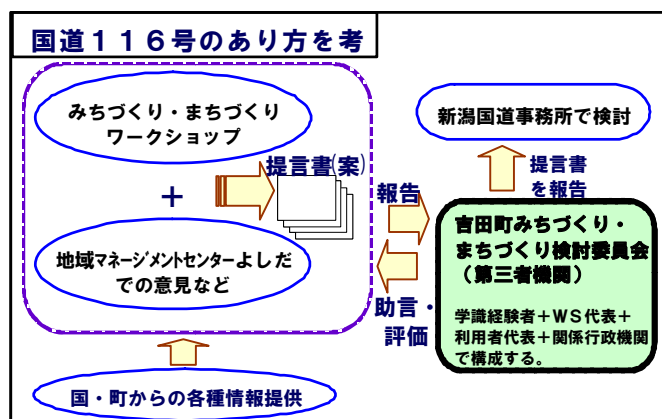
委員会での検討結果は次回ワークショップにてご報告します。

※一般の方は聴講できませんのでご了承ください。

◎検討委員は昨年度に引き続きまして、下表の六氏を予定しています。（敬称略）

氏名	所属	氏名	所属
佐野 可寸志	長岡技科大学助教授：交通工学	渡邊 誠介	長岡造形大学助教授：都市計画
近藤 安男	ワークショップ参加者代表	山下 昌昭	道路利用者代表：(社)県トラック協会西燕支部長
泉 光一	吉田町町長	橋本 祐憲	新潟国道事務所副所長

◆検討委員会とワークショップの目的



吉田町みちづくり・まちづくり検討委員会

委員会は、一般国道116号吉田町周辺区間での構想段階における市民参画型道路計画（PI）プロセスの透明性、客観性、公正さを高め、公益的な視点から助言・評価を行います。

みちづくり・まちづくりワークショップ

まちづくりから見たみちづくりという視点から、「これからの国道116号のあり方」について、住民の皆様と行政が一緒になって考えていくために開催しています。

◆ワークショップ遅延のお詫び

「吉田町みちづくり・まちづくりワークショップ」が大変長い間中断してしまいまして申し訳ございません。昨年度は、新潟県中越地震が発生し、北陸地方整備局職員はもとより、地域インフラ研究会のメンバーも、被災地支援を行っておりました。吉田町住民にとって心待ちにされているワークショップが中断するとともに、ご報告が大変遅くなったことに関し、この紙面をかりてお詫び申し上げます。

●第6回ワークショップの様子

昨年10月19日（火）吉田町産業会館にて『第6回みちづくり・まちづくりワークショップ』が開催され、現116号東側のバイパスルート帯案を中心に、良い点悪い点について意見交換しました。その意見の一部を以下に示します。

◆長いルート帯案について◆

- 良い点：工業団地等へのアクセス性がよい
町村合併による広域交通網に対応
- 悪い点：延長が長く工事コストが高い
用地が優良農地に多くかかる

◆短いルート帯案について◆

- 良い点：長いルート帯案に比べコスト低減が図れる
- 悪い点：農地の斜め分断が生ずる
延長が短い分、バイパスのメリットが少ない

◆ その他（共通） ◆

- 環境に配慮してほしい



◎ これらの意見を参考に「吉田町みちづくり・まちづくり検討委員会」で技術的な検討などが行われます。

●今後の予定

第2回検討委員会後、10月中に第7回ワークショップを開催したいと考えております。次回ワークショップでは、委員会での検討内容の説明や道路を計画する上での配慮事項等について意見交換したいと考えております。また、第8回ワークショップは12月、第3回検討委員会は1月にそれぞれ開催を予定しております。開催日が決定した段階で、地域インフラ研究会ホームページ、ニュースレター等でご案内致します。



今年度をもって国道116号の住民参画の取り組みは終了致します。地域に大きな影響を与えられこの取り組みに、ぜひ多くの方が参加して下さるようお願い致します。

	平成17年				平成18年
	9月	10月	11月	12月	1月
みちづくり・まちづくり 検討委員会	第2回 概略計画 の検討				第3回 提言書の 作成
ワークショップ		第7回 提言書(案)の 内容確認		第8回 提言書(案)の まとめ	

今後の予定

お問い合わせ：特定非営利活動法人 地域インフラ研究会
〒951-8153 新潟市文京町 6-7

TEL/FAX 025-233-2270
URL <http://www.t-infra.or.jp>

国土交通省 新潟国道事務所 調査課
〒950-0912 新潟市南笹口 2-1-65
吉田町建設課
〒959-0295 吉田町日之出町 1-1

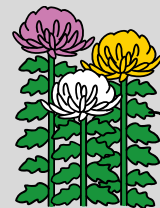
TEL 025-246-7761/FAX 025-246-7763
TEL 0256-92-2111/FAX 0256-92-2110

※このお知らせは吉田町全戸に配布しています。

吉田 みちづくり・まちづくり 通信

今号の内容

- ① 第7回みちづくり・まちづくりワークショップ開催のお知らせ
- ② 第2回吉田町みちづくり・まちづくり検討委員会の様子



編集・発行：NPO法人 地域インフラ研究会

vol. 10

第7回ワークショップを開催します!!

昨年10月の第6回みちづくり・まちづくりワークショップ以降、中断されていたワークショップを再開します。今回のワークショップでは、前号でお知らせした第2回吉田町みちづくり・まちづくり検討委員会の報告と道路構造等についてをテーマとして開催いたします。

多数の皆様の参加をお待ちしております。

「第7回みちづくり・まちづくりワークショップ」

日 時：平成17年10月31日（月）午後7時～9時
場 所：吉田町産業会館2F 多目的ホール
テーマ：検討委員会結果の報告と道路構造等について



※今まで参加された方は、ぜひ引き続きのご参加をお願いします。なお、初参加者も大歓迎です。

第2回検討委員会が開催されました

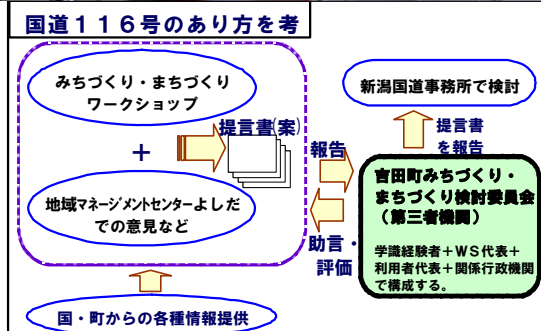
前号でお知らせした「第2回吉田町みちづくり・まちづくり検討委員会」が開催されました。

検討委員は、昨年度開催した第1回検討委員会と同じ顔ぶれです。長岡造形大の渡邊先生を除く委員5名が出席し、第6回ワークショップの結果や道路を計画するうえでの技術的な検討結果などについて多様な議論が展開されました。

委員名簿（敬称略）

氏 名	所 属
佐野可寸志	長岡技科大助教授
渡邊 誠介	長岡造形大助教授
近藤 安男	WS参加者代表
山下 昌昭	道路利用者代表
泉 光一	吉田町町長
橋本 祐憲	新潟国道事務所副所長

第2回吉田町みちづくり・まちづくり検討委員会
日時：平成17年9月30日（金）14:00～15:30
開催場所：吉田町産業会館



◆委員会での議事

1. 第6回みちづくり・まちづくりワークショップの結果について

- 今までのワークショップを通し、吉田町内の地域別参加者の状況という観点では、参加者の入れ替わりはあるものの地域全体から参加していることが確認できた。
- 国道116号沿いの市街地からの参加者が多いようだが、概ね偏りはないようである。
- ワークショップ参加者は多い方がよい。リピーターとなる方が多くなるよう今後も参加者を増やす努力をしてほしい。

2. ルート帯案の確認と道路規格について

- 長いルートは、既存の農道を利用するなどコスト削減に配慮する必要がある。
- 「高盛土・低盛土」といった構造については、「早期のバイパス整備」といった点や「地域における道路の使い方」といった点を考慮する必要がある。また、ルートと道路構造は密接に関係しているので、ワークショップでも意見を求めるべきである。
- この道路が担うべき役割（通過交通排除が目的）について議論していく必要がある。
- 現在検討しているバイパスにおいては、沿道開発を抑制していく必要があるのではないか。
- 今後の「まちづくり」を考慮しながら検討を進めていく必要がある。



3. 今後のスケジュールについて

- 検討委員会は、今回を含めて3回を予定、ワークショップは2回行う予定です。
- 来年3月に、検討委員会から新潟国道事務所に対して提言書を提出することを予定しています。

◆検討委員会とワークショップの目的

吉田町みちづくり・まちづくり検討委員会

委員会は、一般国道116号吉田町周辺区間での構想段階における市民参画型道路計画（P1）プロセスの透明性、客観性、公正さを高め、公益的な視点から助言・評価を行います。

みちづくり・まちづくりワークショップ

まちづくりから見たみちづくりという視点から、「これからの国道116号のあり方」について、住民の皆様と行政が一緒になって考えていくために開催しています。

お問い合わせ：特定非営利活動法人 地域インフラ研究会
〒951-8153 新潟市文京町 6-7

国土交通省 新潟国道事務所 調査課
〒950-0912 新潟市南笹口 2-1-65
吉田町建設課
〒959-0295 吉田町日之出町 1-1

TEL/FAX 025-233-2270
URL <http://www.t-infra.or.jp>

TEL 025-246-7761 / FAX 025-246-7763

TEL 0256-92-2111 / FAX 0256-92-2110

※このお知らせは吉田町全戸に配布しています。

第7回吉田町みちづくり・まちづくり ワークショップを開催しました。



検討委員会座長である長岡技術科学大学の佐野助教授がオブザーバーとして参加されました。

第7回吉田町みちづくり・まちづくり ワークショップ

日時：平成17年10月31日（月）
場所：吉田町産業会館2F 多目的ホール
次 第

1. 今日の進め方と今までの振り返り
2. 第2回検討委員会の報告
 - ① 技術的検討結果の報告
 - ② 第2回検討委員会の様子
3. グループワーク
 - ① 道路が担うべき役割と構造など
 - ② グループ発表

◆ワークショップでの意見

今回のワークショップでの主な意見を整理しましたのでご紹介します。

	新たなバイパス		現国道116号
道路に望む役割	・現国道の通過交通分を受け持つ道路 ・出入り制限を行い、高速交通サービスの提供が必要である		・生活道路として活用する ・歩行者を配慮した道路とする
新たなバイパスは高盛土か、低盛土か？	高盛土 【良い点】 ・経済性に劣るが、安全性が高い ・通過時間が短縮できる 【悪い点】 ・コストがかかる ・今までの田園景観の中に道路ができ、分断される感じがする	低盛土 【良い点】 ・景観を阻害しない ・交差点によるアップダウンを少なくできる 【悪い点】 ・信号交差点が多く時間がかかる ・高盛土に比べては交通事故の確率が高い	
交差点など主な構造における留意事項	・交差点（インターチェンジ）は幹線道路に集約する ・街路樹など環境に配慮した道路とする		・バリアフリーや除雪に配慮した歩道整備が必要 ・街路樹を植え環境を整備
その他	・コスト縮減のためにも道路整備と圃場整備を併せて行う必要がある ・将来のことを考えるためにも早くルートを決めて欲しい		・特に通学路における除雪が必要である

今後のワークショップの開催日時やスケジュールが決まりましたら、ニューズレターや私どものホームページでお知らせします。

お問い合わせ：特定非営利活動法人地域インフラ研究会
〒951-8153 新潟市文京町6-7

TEL/FAX 025-233-2270
URL <http://www.t-infra.or.jp/>

国土交通省 新潟国道事務所 調査課
〒950-0912 新潟市南笹口2-1-65
吉田町建設課
〒959-0295 吉田町日之出町1-1

TEL 025-246-7761 / FAX 025-246-7763
TEL 0256-92-2111 / FAX 0256-92-2110

※このお知らせは吉田町全戸に配布しています。

吉田

みちづくり・まちづくり

通信

今号の内容

- ① 第8回みちづくり・まちづくりワークショップ開催のお知らせ
- ② 第3回吉田町みちづくり・まちづくり検討委員会の様子



編集・発行 : NPO 法人 地域インフラ研究会

vol. 12

第8回ワークショップを開催します!!

これまで吉田町住民の皆様を対象としてワークショップ等を取り組んできましたが、今回の第8回をもちまして今年度最後の開催となります。ワークショップは、第7回までに延べ約240名が参加し、一般国道116号の吉田町地区での整備方針等を確認してきました。

今までの皆様からのご意見等を踏まえ、提言書(案)をとりまとめましたので、今回のワークショップで皆様にご確認いただきたいと思います。

今年度最後でもありますので、多数の皆様の参加をお待ちしております。

「第8回みちづくり・まちづくりワークショップ」

日時：平成18年2月9日(木) 午後6時45分～9時

場所：吉田町産業会館2F 多目的ホール

テーマ：提言書(案)の確認

※今まで参加された方は、ぜひ引き続きのご参加をお願いします。なお、初参加の方も大歓迎です。

提言書(案)



ワークショップを中心とした、今迄の主な取り組みを以下に示します。

第1回ワークショップ(2003年3月17日)

国道116号の課題と問題を出し合いました。

住民アンケート調査の実施

(2003年2月1日～2003年2月15日)

第2回ワークショップ(2003年11月11日)

住民のみなさんから見た問題について話し合いました。

第3回ワークショップ(2003年12月16日)

これから国道116号をどうしたいかみんなで考えました。

国道116号沿道の商店・事業所への参加呼びかけ(2004年1月14日)

第4回ワークショップ(2004年1月28日)

対策案の良いところ・悪いところを確認して、整備の方針を考えました。

意見交換会の開催
(2004年2月12日)

第5回ワークショップ(2004年2月27日)

整備の方針を決めました。

第1回検討委員会(2004年9月13日)

提言書(案)骨子の確認など

第6回ワークショップ(2004年10月19日)

現116号東側のバイパスルート常案を中心に、良い点・悪い点について話し合いました。

第2回検討委員会(2005年9月30日)

技術的な検討結果に関する審議

第7回ワークショップ(2005年10月31日)

新たな道路に望む役割や構造について考えました。

第3回検討委員会(2005年12月27日)

技術的な検討結果と提言書(案)に関する審議

第8回ワークショップ(2006年2月9日)

提言書(案)を確認をする予定です。

第4回検討委員会(2006年2月か3月に予定しています)



第3回検討委員会が開催されました

今回の委員会は年末の12月27日の開催となりましたが、提言書(案)作成に向け、委員全員が集まり(吉田町町長代理に池田建設課長)、第2回検討委員会資料に関する技術的補足と第7回ワークショップの状況、提言書(案)の内容等について審議されました。議事の一部をご紹介します。

第3回吉田町みちづくり・まちづくり検討委員会
日時：平成17年12月27日(火)14:00~15:30
開催場所：吉田町役場

委員名簿(敬称略)

氏名	所属
佐野 可寸志	長岡技科大助教授
渡邊 誠介	長岡造形大助教授
近藤 安男	ワークショップ参加者代表
山下 昌昭	道路利用者代表
泉 光一	吉田町町長
橋本 祐憲	新潟国道事務所副所長



◆第3回検討委員会での議事の一部

1. 技術的な検討事項について

○JR 弥彦線との交差など、物理的に高盛土構造が必要となる箇所が発生する。そのため、今後はより具体的な設計を行うなど、精度を高めたくて、ルート、構造などを検討する必要がある。

2. 提言書(案)について

○ワークショップ参加者の中で、道路の整備方法に関して各種意見があった中、なぜバイパス整備という方向付けがされたのか、そこに至る経緯を記載する必要がある。

○今後、合併により新市が誕生するが、バイパス整備に向けては、新市と新潟国道事務所が協調して取り組むことが重要である。

○各種検討内容や決定事項は、今後も住民に広く情報発信していく必要がある。

お問い合わせ：特定非営利活動法人地域インフラ研究会
〒951-8153 新潟市文京町 6-7

TEL/FAX 025-233-2270
URL <http://www.t-infra.or.jp/>

国土交通省 新潟国道事務所 調査課
〒950-0912 新潟市南笹口 2-1-65
吉田町建設課
〒959-0295 吉田町日之出町 1-1

TEL 025-246-7761 / FAX 025-246-7763
TEL 0256-92-2111 / FAX 0256-92-2110

※このお知らせは吉田町全戸に配布しています。